

高知大学医学部
外科学講座外科1

楷風

同門会誌 第13号
2018年(平成30年)

外科学講座外科1教室の大目標

Academic Surgeonの育成

研究マインドを持った手術の上手な外科医の育成

目標達成のための三つの課題

■ 医学教育の充実

母校愛を培う医学教育

■ 良好な手術成績の達成

良好な手術成績は良好な人間関係から

■ 高知発の優れた研究を世界へ発信

すべての研究は英語論文で完結

目

次

■ 巻頭言	花 崎 和 弘	1
■ 教室員集合写真		2
■ スタッフ紹介		2
■ 新入局員挨拶	石 田 信 子	2
■ 教室の診療研究活動報告		
食道	北 川 博 之	3
胃	並 川 努	3
肝胆膵	上 村 直	5
大腸	岡 本 健	5
小児外科	大 畠 雅 之	6
ヘルニア	津 田 祥	7
乳腺・内分泌	杉 本 健 樹	7
■ 国際医療貢献	小 林 道 也	9
■ 国際学会参加報告	北 川 博 之	10
■ 関連病院寄稿		
高知生協病院	川 村 貴 範	11
医療法人十全会 早明浦病院	古 賀 眞 紀 子	11
医療法人五月会 須崎くろしお病院	田 村 精 平	12
医療法人臼井会 田野病院	臼 井 隆	13
社会医療法人近森会 近森病院	八 木 健	14
高知県立幡多けんみん病院	上 岡 教 人	14
社会医療法人仁生会 細木病院グループ	細 木 秀 美	16
特定医療法人仁生会 細木病院	上 地 一 平	17
■ イベント・Happy News		18

■ 第13回楷風会賞 受賞者	並 川 努	33
■ 第13回Impact Factor賞 受賞者	並 川 努	34
■ 学外 研修報告		
高知赤十字病院	宇都宮 正 人	35
幡多けんみん病院	川 西 泰 広	35
幡多けんみん病院	藤 枝 悠 希	35
近森病院	津 田 晋	36
■ 学外 近況報告		
仁淀病院	志 賀 舞	37
医療法人仁栄会 島津病院	西 家 佐吉子	37
久留米大学外科学講座小児外科部門	橋 詰 直 樹	38
高知赤十字病院	甫喜本 憲 弘	38
■ 医局事務より		40
■ 手術件数		42
■ 業績:論文発表・学会発表・Grant		45
■ 会員名簿		68
■ 楷風会会則		78
■ 編集後記	花 崎 和 弘	81

同門会誌(年報) 第13号 巻頭言

高知に参ってからの13年間で小生の専門分野である肝切除は500例以上となり、膵切除も250例を超えた。健康に恵まれて2018年も全ての肝切除および膵切除手術に執刀医または指導的助手として入り、幸いなことにNo Mortalityで患者さんのために貢献することができた。また大学評価の最も大切な指標である英語論文数は13年間でおよそ300編に達した。その結果、当科は院内の全診療科の中でトップの英語論文数を世界に発信できる教室に発展した。Academic Surgeonを目指す教室員たちを誇りに思い、いつも感謝している。



花崎 和弘

2018年4月に新人の石田信子先生をお迎えできた。本年度からスタートした新専門医制度下で外科医登録数が一名の県が高知県も含めて全国に3県あった。まさに石田先生は高知県の未来の外科医療を担う金の卵である。石田先生は温厚で落ち着いた物腰と生来の器用さで、しっかり患者さんを診て、しっかり勉強しながら、着実に研鑽を積んでいる。将来高知県の外科医療を背負って立てる有能な人材に成長する様にしっかりサポートしていきたい。

2018年9月14日・15日に第27回消化器疾患病態治療研究会を高知市の三翠園で開催させていただいた。過去最多の演題数と参加者となり盛会であった。全員懇親会の目玉として企画した三翠園の庭園で行われた「鰹の薫焼きたたき体験」は大好評で、参加者の笑顔がはじけた。これも一重に國崎主税会長をはじめとする関係者の皆様の格別なご支援とご協力の賜物である。

2019年11月14日から16日の3日間、第81回日本臨床外科学会総会を「地域から世界へ発信する臨床外科学: Staying local, Moving global」をテーマに高知市で開催させていただく予定である。大規模な学会のため、入念な準備をしてきたつもりであるが、不安は尽きない。そうした中、有難いことに堀見先生(細木病院長)から2019年の臨床外科学会高知支部会は延期して、高知開催の総会一本に絞って演題を出そうという提案が出され、認められた。堀見先生および高知支部会長の渋谷先生(高知医療センター)をはじめとする支部会の皆様のご厚情に感謝したい。開催当日は高知でしか出来ない、高知ならではの最良のおもてなしを心がけ、全国各地から多くの皆様のお越しを心からお待ち申し上げたい。総会ポスターのイラストは当科の津田祥先生にお願いした。漫画王国高知に相応しい斬新なポスターが完成した。津田先生のご尽力にも深謝したい。

高知大学医学部附属病院は病院再開発の真っ只中にある。ご存知のように病院収益は手術収益により大きく左右される。当科は全ての外科系診療科の中で中心的な役割を果たしながら、2018年も過去最多の手術数を更新し、病床稼働率も院内トップを走り続けている。手術患者さんをご紹介いただいた関連施設や同門会の先生方の1年間のご支援とご協力に対し、心から御礼申し上げて、拙稿を閉じる。

教室員集合写真「さくら道」



平成30年4月2日撮影

【スタッフ紹介】

職名	氏名
教授(附属病院顧問) 光線医療センター センター長	花崎 和弘
教授(医療学講座医療管理学分野) がん治療センター センター長	小林 道也
特任教授	大畠 雅之
准教授(病院教授) 乳腺センター センター長	杉本 健樹
講師(病院准教授)	並川 努
講師(医療学講座医療管理学分野)	岡本 健
講師	駄場中 研
助教(学内講師・医局長)	北川 博之
特任講師	前田 広道
助教	坂本 浩一
助教	辻井 茂宏
助教(病棟医長)	上村 直

職名	氏名
助教(外来医長)	沖 豊和
助教(手術部)	岩部 純
特任助教	小河 真帆
特任助教	宗景 絵里
医員(病院助教)	金川 俊哉
医員(病院助教)	宗景 匡哉
医員	福留 惟行
医員	藤澤 和音
医員	津田 祥
医員	横田 啓一郎
医員	石田 信子
事務補佐員	川村 麻由
事務補佐員	菅野 真由
事務補佐員	梶原 愛
事務補佐員(乳腺センター)	辻岡 織江

新入局員挨拶

2018年度から第一外科に入局いたしました、石田信子と申します。第一外科の先生方には学生のころからお世話になり、初期研修医時代には学会発表もさせていただきました。手技も知識も身に付けるのに人一倍時間のかかる私ではありますが、高知家外科専門研修プログラムの一期生として、なにより一人の外科医として成長すべく頑張って参りたいと思います。どうかご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



石田 信子

教室の診療研究活動報告

食道

北川 博之

あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

昨年は体調が悪くなり、論文は通らず、手術合併症は多く（予想外の事態も多く）、みなさんには大変ご心配をおかけしました。外勤先に不幸の電話がかかってくるパターンが続き、悪夢にうなされたため、年末までに神社に駆け込み、お祓いをしてもらいました。突然の祈祷依頼に神主さんも「何があったのですか？」と仰天していました。前厄でこれほど不運だと、本厄では一体どんな目にあるのか恐ろしくてかないません。そこで年明け早々これまで一度も足を踏み入れたことのない自宅近くの神社も訪れて、お祓いをしていただきました。ダブルお祓いパワーで悪い流れを断ち切りたいです。

ところで年末の天皇誕生日に、天皇陛下が国民や皇后陛下に感謝のお言葉を述べられるニュースを観て、ジーンとききました。そして、話される日本語が美しいと感じました。国民の象徴たらんと取り組まれてきた陛下の集大成としての重みが、美しく聞こえるのでしょうか？年末にかけてバタバタ慌て、踊りながら「USA」を連呼し、「カモンベイビー1外科」などと替え歌を歌っている自分を情けなく思いました。今年には地に足をつけて仕事に取り組みたいです。

【2018年の食道診療】

- ・胸腔鏡下食道切除術：19（咽喉頭食道全摘：2含む）
- ・下部食道噴門部胃切除：3
- ・食道バイパス：3
- ・非切除：14（化学放射線治療：5）

【今後の課題と目標】

多臓器浸潤 T4 症例、サルベージ手術、新規分子標的薬への対応

高知家外科専門医カリキュラムにおける関連施設と連携した若手外科医育成システムの確立

胃

並川 努

2018年の上部消化管の診療は、北川、岩部、藤澤、津田、横田、石田そして初期研修医の先生方とともに行わせていただきました。岩部、石田の両先生は獅子奮迅の活躍をしてくれまして大変助けられました。手術症例は下記の表に示しておりますが、今年はロボット支援下手術が保険適応となり、今後益々拡がりをみせることが予想されます。また29症例の治癒切除不能進行・再発胃癌の患者さんの治療も行わせていただきました。免疫チェックポイント阻害剤が胃癌治療においても使用できるようになり1年が経過して、これまでと異なった作用機序にかかる期待も大きく、実際に非常に奏功した症例も経験させていただきました。一方で、甲状腺機能低下、間質性肺炎も経験し、内分泌内科、呼吸器内科の先生方にご教授をいただきながら対応治療を行って参りました。今後、看護師、薬剤師さんはもちろんのこと、関連の専門領域の先生方と共に特有の免疫関連有害事象対策チームの形成が喫緊の課題とっております。また conversion therapy を考慮する症例は確実に増加してきており、その良好な効果も実感しているところで、多種多様な個別化治療をチームとして考えてより高い治療

成績の実現を目指していきたいと思っております。

「進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時における SPP-005 を用いた光線力学診断の有効性及び安全性を検討する多施設共同試験（検証試験）」は大阪大学をはじめとした先生方とともに医師主導治験として実施しており 2018 年は 11 症例を登録させていただきました。臨床研究コーディネーター、CRC、事務の方々には大変お世話になっております。この場を借りまして改めて御礼申し上げます。新規薬剤の保険承認を目指してさらに頑張りたいと思っております。その他、多種の多施設共同研究、共同研究に参加させていただいており、やはり医師主導の多施設共同第 II 相試験として「治癒切除胃癌 Stage III 症例に対する術後補助化学療法としての S-1+Oxaliplatin 併用療法 (Treatment using oxaliplatin and S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage III gastric cancer : a multicenter phase II study : TOSA trial)」の症例登録も着実に進めております。

その他の研究としては、「早期胃癌に対する内視鏡的粘膜切除術における 5- アミノレブリン酸を用いた光学的診断法の開発応用」、「腸音モニタリングシステムを用いた全身麻酔下手術周術期における腸蠕動運動の解析」、「人工膵臓を用いた外科的糖尿病の新たな血糖管理法の開発と発症分子機構の解明」等に取り組み、多施設共同研究として、「化学療法未治療の高齢者進行・再発胃癌に対する CapeOX 療法の第 II 相臨床試験 (TCOG GI-1601)」、「切除不能進行性胃癌症例におけるニボルマブのバイオマーカー探索を含めた観察研究 (DELIVER 試験) : JACCRO GC-08」、「切除不能進行再発胃癌に対するナブパクリタキセルとラムシルマブ併用療法の隔週投与方法における有効性と安全性を検討する第 II 相試験 (JACCRO GC-09)」、「SAMIT バイオマーカー付随研究 : SAMIT 試験「漿膜浸潤胃癌症例を対象とした術後補助化学療法の Factorial Design によるランダム化比較試験 : フッ化ピリミジン単独と Paclitaxel → フッ化ピリミジン逐次併用の比較および UFT と TS-1 の比較」バイオマーカー付随研究」等に参加させていただいております。

このような臨床研究、社会還元事業を含めた成果を 2018 年は学会および研究会において胃関連分野で 37 の演題、誌上で 13 編発信させていただくことができましたが、新たな研究に取り組めるようにさらに精進してまいりたいと存じます。私たちの診療および研究が行えるのは同門の先生方をはじめ、看護師、薬剤師、栄養士、医療スタッフ、事務を含めた関連の方々のご協力、ご支援あつてのことであり重ねて御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 2018 胃手術症例数

開腹胃全摘術	12
腹腔鏡補助下胃全摘術	1
開腹幽門側胃切除術	23
腹腔鏡補助下幽門側胃切除術	24
噴門側胃切除術	0
腹腔鏡補助下噴門側胃切除術	3
胃部分切除術	4
審査腹腔鏡	11
その他	6
計	84

2018年肝胆膵グループは、4月からは宗景匡哉が大学に復帰し、花崎教授、上村、宗景匡哉、藤澤、津田祥で診療を行いました。藤澤は出産のため6月から産休に入り、8月には待望の第一子が元気に誕生しました。また、初期研修医の富田（1ヶ月）に加わっていただきました。

手術数は、肝切除数は32例、膵切除術は12例、胆嚢摘出術34例、その他16例でした。

また、臨床研究では、従来から行っていました『次世代型人工膵臓を用いた糖尿病に対する新しい血糖管理法の確立』、『人工膵臓を用いた外科的糖尿病の新たな血糖管理法の開発と発症分子機構の解明』について、登録症例数を増やすことができました。また、免疫難病センターとともに『感染症、自己免疫疾患、癌におけるロイシンリッチアルファ2グリコプロテイン（LRG）の炎症マーカーとしての有用性に関する臨床研究』についてすすめているところです。

大学の肝胆膵グループとして、安全かつ高水準の医療を提供できるよう引き続き精進しつつ、手術症例の増加を目指し一致団結して参りたい所存です。日々の臨床を1例1例大事にするのは当然のこととし、研究とともにその結果を発信しつつ、教育にも尽力したいと考えております。同門の先生方や地域の先生方には御尽力いただき、誠にありがとうございました。引き続き御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今年の大腸グループは、今まで通り小林道也(医療管理学教授)をスーパーバイザーとし、岡本・前田・金川と3月までは宇都宮、4月から福留の4人で診療を行いました。研修医は中谷優(2月)にローテートして頂きました。昨年は6人がローテートして頂きましたが、今年は外科を選択する研修医が少なく1名のみとなってしまいました。外科医のなり手が少ない現在の状況は、将来外科医の高齢化をきたし深刻な問題となることは容易に想像ができます。年若いでも引退ができないかもしれません。

2018年の大腸グループが担当した手術症例は昨年より28例増加の190例でした。大腸悪性疾患は91例(5例増加)で約9割を腹腔鏡で行いました。前田、金川、福留が内視鏡外科学会・技術認定医(大腸)の資格取得を目指し日々励んでおります。

研究のほうでは、前田が2016年から始めている臨床研究(リンパ節検索における脂肪溶解液の有用性)についての論文を投稿中で、さらに新たにデータ解析を行い検討中です。その他には福留が一時的ストーマの早期閉鎖が可能かどうかの検討を開始しました。2019年には結果報告ができる見込みです。グループとしては今年も多施設臨床試験に参加しており、以下の研究が症例集積中です。昨年に比べ参加臨床試験数は少なくなっていますが、該当する症例がございましたら是非御紹介下さい。

2018年も大きなトラブルなく診療することができました。グループの平均年齢は高くなる一方(高齢化)でフットワークも重くなりがちですが、患者さんにとって安全で質の高い医療を提供することはぶれずに、全員が無理せず怠けずで日々の診療、研究、教育を行ってまいります。今後ともよろしく申し上げます。(敬称略)

■ 術後補助化学療法

1. 大腸癌肝転移根治切除例に対する術後補助化学療法としてのオキサリプラチン+カペシタビン

併用療法（XELOX 療法）の検討（REX Study）

■ 進行再発一次治療

1. 大腸癌に対する oxaliplatin 併用の術後補助化学療法終了後 6 か月以降再発例を対象とした oxaliplatin based regimen の有効性を検討する第 II 相臨床試験（INSPIRE）

■ 進行再発二次治療

1. FOLFOX plus panitumumab による一次治療抵抗または不耐となった RAS wild-type、切除不能進行・再発大腸癌に対する 2 次治療としての FOLFIRI plus panitumumab 療法の有効性に関する多施設共同第 II 相試験—Liquid Biopsy によるバイオマーカー発現の変化と抗腫瘍効果についての検討—（PBP study）

■ 前向き臨床研究

1. 後期高齢者低位直腸癌（高リスク pT1、低リスク pT2）に対する準標準的治療を評価する多施設共同前向き観察研究

小児外科

大畠 雅之

2018 年の小児外科グループの大学病院での診療は前年と同じく大畠、坂本で行い、毎週火曜日（第 2 を除く）の県立あき病院の小児外科外来、月 1 回の幡多けんみん病院外来を大畠が担当しました。

大学病院での年間手術数は 102 例（鏡視下手術 54 例）となり過去最高となりました。春夏休み期間中には小児外科の手術予定枠をほぼ埋めることができるようになりましたが、手術予定のない週も依然として見られさらなる努力が必要と感じています。

大学病院小児外科外来は昨年と比較するとべ受診数は 10% ほど増加しています。東部の県立あき総合病院と西部の幡多けんみん病院に開設した小児外科外来受診数はそれぞれ 79 名と 144 名で（2017 年 75 名、134 名）、手術で大学病院に紹介されたのは 6 例と 13 例でした。幡多けんみん病院では 2 例の小児外科手術を行っています。

現在 2 つの臨床研究を進めています。

1. AMED_胆道閉鎖症診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究

胆道閉鎖症（BA）のスクリーニング検査としての尿中硫酸抱合型胆汁酸（USBA）測定の有用性を検討しています。長崎大学病院小児外科との共同研究で 2010 年から 2018 年のデータ解析を行っています。

2. 便色認識アプリケーションを用いたフィールド実証研究

2018 年の科研費に採用され 2018 年 11 月に高知大学倫理委員会から承認を得ました。聖路加国際大学疫学センターとの共同研究で 2016 年に発表された人工知能を応用したプログラムを使用しています。プログラムの有用性についてはある程度の実用性が予想されていましたが、実臨床での応用が進みませんでした。今回新生児・乳児健診で便の撮影を行う実証研究を行います。高知大学と県立あき総合病院と幡多けんみん病院で 2019 年 1 月から開始され、運用の問題点を修正しながら県内の産科・小児科施設への紹介を予定しています。



2018年のヘルニアグループは、前半は藤澤先生と津田で、藤澤先生が産休に入られてからは津田・横田・そして新入局員である石田と担当致しました。辻井先生・駄場中先生をはじめとし、多くの先生方のお力をお借りして手術・診療を行いました。おかげさまで本年は合計51例の手術を施行しております。2017年12月に現在のヘルニアグループメンバーで初めて腹腔鏡下ヘルニア修復術TAPP法を施行したのを皮切りに、2018年は安全面に十分の配慮しながらも積極的に取り入れ、合計17例のTAPP手術を施行しております。大きなトラブルもなく運営できているのも、支えていただいている先生方のお力添えの賜物です。

本年も安全性に配慮しつつ早期退院を目標とした周術期管理を行うとともに、日々研鑽し、学会活動や研究なども行えるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

乳腺・内分泌（乳腺センター／臨床遺伝診療部）

杉本 健樹

乳腺内分泌外科部門では、2018年も乳腺センターのメンバーである杉本、沖、小河の3人に加え駄場中のサポートを受けて医師は4人体制での診療となりましたが、外来患者数、手術件数は順調に増加しています。

乳癌の薬物療法では、他の固形癌と違い従来からエストロゲン受容体（ER）とHER2（Human Epidermal Growth Factor 2）過剰発現を標的とした治療が行われていました。しかし、近未来のPrecision Oncology（日本的には「がんゲノム医療」）時代にはより綿密に治療ターゲットを調べ、その結果で治療法を選択する必要があります。

「がんゲノム医療」時代の到来が目前に迫る中で、従来型の臓器別縦割り診療のPrecision Oncologyとしては、ER陽性HER2陰性乳癌の補助化学療法の適応決定に際して、保険適用で行われているプロゲステロン受容体（PgR）や増殖タンパク（Ki67）の免疫染色の結果を加味して決定されていましたが、化学療法の効果予測としては不十分でした。そこで、再発リスクと同時に補助化学療法の効果予測に最も優れた21遺伝子の発現解析（Oncotype Dx）を関連病院での私費診療として導入し、すでに30名以上の患者に応用しています。

また、2018年6月には、BRCA1/2遺伝子に病的変異を有する進行再発乳癌にPARP1阻害剤（オラパリブ）が適応となり、コンパニオン診断としてのBRCA遺伝学的検査が保険適用となりました。2011年から臨床遺伝診療部との協力体制の下、私費でのBRCA遺伝学的検査に取り組んでいましたので、保険適応と同時に遺伝リスクのある進行再発患者15名にスムーズに遺伝学的検査を行うことができ、すでに4名にオラパリブを投与しています。同時に、術後補助療法としてのオラパリブのグローバル治験（Olympia試験）にも参加し、この2年間で30名に遺伝学的検査を行ったことで1月には附属病院の治験貢献賞を受賞しています。一方、私費での遺伝学的検査では、BRCA遺伝子のみでは説明のつかない家族歴を要する場合や若年発症のさまざまな悪性腫瘍に対応できるように複数のがん易罹患性遺伝子を同時に検査できる多遺伝子パネルを導入し、すでに3名が受検しています。

また、乳癌治療との関連は必ずしも高くありませんが、杉本が部長を務める臨床遺伝診療部としては標準治療が困難な固形癌に対する免疫チェックポイント阻害剤のPembrolizumabのコンパニオン

診断としてのマイクロサテライト不安定性（MSI）検査の準備を進め、保険適用と同時に検査開始可能な体制を整備しました。

本年度、高知大学医学部附属病院ががんゲノム医療の連携病院となり、体細胞シーケンスを中心としたNCC オンコパネルの先進医療が開始され、院内第1号として再発乳癌患者をエントリーしました。

このような Precision Oncology の流れの中で、乳癌治療では、従来のホルモン療法、抗HER2療法、化学療法に加え、次々と新規の分子標的薬が処方できるようになってきました。上述のオラパリブに加え、従来からのmTOR阻害剤、CDK4/6（Cyclin-dependent Kinase）阻害剤など、そして、内分泌領域では手術不能甲状腺癌に対するTKI（チロシンキナーゼ阻害剤）のLenvatinib等の処方機会も増えています。このため、従来からの週1回多職種カンファレンスを中心に多職種で副作用対策ができる体制（特に薬剤師・看護師を中心とした副作用説明と対応策の実践）を強化しています。

さらに、診断・治療・緩和ケアの情報共有を目的に乳腺カンファレンスには、上記の薬剤師に加え、乳腺外科医以外に、形成外科・緩和ケアチーム医師が定期的に参加すると同時に、乳癌認定看護師および外科外来・外来化学療法室看護師・家族ケア看護師・遺伝カウンセラー・体表超音波担当の検査技師・MSWも出席し、個々の患者に対して多角的に検討して治療方針を決定すると同時に、臨床経過や患者の思いなどの情報共有を行い治療の成果を評価しながら継続できる体制となっています。

多職種で構成する乳腺センターと遺伝診療に対応する臨床遺伝診療部で複雑する Precision Oncology に対応すると同時に、乳腺内分泌外科部門として増加する手術症例にも対応していく必要があります。将来の、乳癌・甲状腺癌診療を担う人材のリクルートと育成が今後の大きな課題と考えています。

■ 手術症例数

乳腺疾患手術症例数 145件（140例）

原発乳癌 124件（119例）（同時性両側 5例）

乳房温存 41件

乳房切除 82件（内、1次2期（同時）乳房再建 10例）

（センチネルリンパ節生検 81件、腋窩郭清 40件）

センチネルリンパ節生検単独 1例

良性疾患 8例、再発巣切除 3例、その他 10例

乳房侵襲的検査（局所麻酔） 123件（針生検 117件、吸引補助下針生検 6件）

甲状腺・副甲状腺疾患症例数 30例

原発甲状腺癌 12例

良性甲状腺結節 5例

原発性副甲状腺機能亢進症 12例

再発巣切除 1例

国際医療貢献 ～ブラジル南マットグロッソ連邦大学での手術指導～

医療学講座医療管理学分野 教授

小林 道也

高知大学とブラジル南マットグロッソ連邦大学は2012年に医学部を中心とした大学間協定を締結しています。2016年には本学で廃棄となる内視鏡システムを寄贈し、消化器内科のチームと私が現地で消化器内視鏡の検査と治療のデモンストレーションをしました。その時以来、腹腔鏡による内視鏡外科手術の指導に行く準備を重ねてまいりました。

平成30年8月4日～10日の7日間、といっても実際には片道約40時間かかるため、驚きの“3泊7日”で、南マットグロッソ州カンポグランジに行つてまいりました。高知大学のメンバーは私と岡本健医師、前田広道医師の3名でした。

荒木京二郎名誉教授には以前から「自分の本拠地でないところでは70%の力で遂行できる手術にしておかなければ何かあった際にはリカバーできない」といった趣旨のご指導を受けておりましたので、先方にも手術患者さんの条件を英文で約30項目送っていました。簡潔に言うと1)肥満でなく、2)病変の位置は下部S状結腸で肛門縁から15cm以上あること、3)重篤な合併疾患を持っていないこと、4)巨大腫瘍でない、5)他臓器浸潤がない、6)開腹手術の既往のないこと、などでした。先方から送られてきた患者さんの情報ではやや肥満気味で、帝王切開、腹腔鏡下胆のう摘出術の既往のあるかたでしたが、許容範囲でしたのでこの患者さんを手術させていただくこととしました。もう1症例は肥満の男性で、ブラジルの先生が手術をするので指導をしてほしいということになりました。ただ、103kgの小柄な男性で低位前方切除術になる患者さんで困難症例でした。

2日間とも手術前の準備にてこずりましたが、1例目は順調に手術を終え、2例目は途中で私と岡本が手術を交代し、何とか完遂することができました。

内視鏡外科手術では手術機器の選択も重要になってきます。私たちが日ごろ使用している鉗子は国際ロータリー財団の援助により日本で購入して持参しました。ディスプレイ製品についてはメールでやり取りしてブラジルでそろうことを確認しました。ただ、不安でしたのでカタログ番号、写真などを送って何度も確認しましたが、結局先方に行ってみると日ごろ使用するタイプの電気メスすらない状態でした。また、トロッカーも数がそろっておらず翌日の手術のために急遽取り寄せることとなりました。

カンポグランジに滞在中のスケジュールは表をご覧ください。手術の前には約2時間の講演や地元のテレビ局、新聞社への対応などあり、かなりの強行スケジュールでした。最終日は午前中にセミナーを開催し、私の手術手技についてのビデオ講演とDr. Shinによるブラジルの医療時の現状についての講演の後、空路帰国の途に就きました。

後日、お二人の患者さんは非常に順調に経過され喜んでいらっしゃるとのメールをいただき私も安心しました。

2019年3月18日～29日まで、Dr. Eric Higa, Dr. Ran Shin Tair, Dr. Tiago Jose da Rochaの3名が高知大学医学部附属病院での短期研修を行う予定です。

今回の手術指導を通じて高知大学とブラジル南マットグロッソ連邦大学との国際交流を発展させることができ、南マットグロッソ州の医療の向上に寄与することができるのが私の喜びです。

スケジュール

- 8月4日 乗船発
- 現地時間8月5日 13時半 ホテル到着(30時間後)
15時 南マットグロッソ州カンポグランジで内視鏡システム確認
手術器具は確認できず
- 16時 患者さん診察
- 8月6日 午前中 学長表敬訪問
講演(約2時間) **3泊7日**
午後 手術(準備から手術開始まで2時間)
手術時間約20分
出血量 ごく少量
- 8月7日 午前中 地元のテレビ局、新聞社対応
午後 手術指導(困難症例 103kgの中年の男性)
18時に手術交代 21時30分終了
- 8月8日 午前 Dr. Shin ブラジルの医療についての講演
小林 手術手技についての講演
午後 帰国の途に(30時間)



国際学会参加報告

ISDE2018 出張記

北川 博之

【背景】

9/16 からウィーンで開催された国際食道学会 The International Society for Disease of the Esophagus (ISDE) に参加しました。

【対象と方法】

同行者は岩部先生です。高知空港を7:30に発つ早起きスケジュールでした。羽田空港から乗り継ぎのミュンヘンまで12時間かかる、大変しんどいフライトでした。ミュンヘン空港は広大で、しかも乗り継ぎ時間が40分しかないため焦ります。しかしミュンヘンの空港では入国審査が短時間で、さらにウィーン行きの出発時刻が遅れたため、結果的には余裕でした。ウィーン国際空港に到着したのは21:00になっており、ホテルまでは最速のCAT(図1)を利用しました。16分でウィーン市内に到着するという速さが売りですが、30分に1便しかないという落とし穴があります。ホテルにチェックインしたらもう寝るだけです。

【結果】

日本との時差は7時間なので、現地の朝5時が日本の12時になります。ウィーン市街地はそれほど広くないので、会場のウィーン大学まで徒歩で移動しました。綺麗な街並みです(図2)。ゴミ箱もいたるところに設置されており、比較的清潔な印象でした。

会場ではいつも通り大勢の日本からの参加者でにぎわっていました。ウィーン大学には伝説の外科医ビルロートの胸像(図3)があり、記念撮影スポットと化していました。

ポスター会場は屋外のテラスでした(図4)。両面テープを準備してくれていたのが助かりました。

【考察】

ウィーン市街地は徒歩圏内ですが、地下鉄やトラムが張り巡らされており、チケットも共通のため移動が便利です。会場や博物館のトイレも清潔です。水道水を飲めます。飲料水を買うと、下手するとビールより高い可能性があります。シュニッツェルは薄切りのトンカツと同義語です。気温は15度から29度と日較差が大きいです。治安も良く、安心して歩けます。

【結語】

ウィーンで開催されたISDE 2018に参加しました。次回も楽しみです。



図1:CATの
チケット販売機



図2:ウィーンの路地



図3:ビルロートの
胸像



図4:学会出張の
証拠写真



図5:高知市民には懐かしい
SPARがたくさんありました

関連病院寄稿

高知生協病院

外科 川村 貴範

昨年も色々ご指導頂きありがとうございました。さて、2018年の当院での手術件数はほぼ前年と同じくらいでした。内容的には、何故か大腸癌が少なく胃癌が多かったりしますが、消化器疾患と乳腺疾患を中心に何とか同じ件数を維持できたのは良かったのかもしれませんが。日進月歩の外科領域ですが、当院でも可能な限り後れを取らないように新しい技術を習得していけるよう今年も頑張りたいと思っています。

個人的には昨年は色々あった年でした。良い事もそうでない事も色々でした。その中で最もショックだったのは、大学時代の友人の急死でした。前日の夜高校の同級生と楽しく飲み帰った後翌日に自宅でなくなっていたところを見つけられたそうです。なかなか現実を受け入れる事が出来ませんでした。いつまでも落ち込んでいてもいけないと思っていた矢先に、今度は中学時代の友人が膀胱癌で亡くなったと連絡が入りました。自分たちがそのような年齢に差し掛かったのでしょうか。2人とも子供さんの事を大切にしていました。まだまだこれからという思いもあった事と思います。2人の事を思い出しながら、自分としては今の人生をしっかり頑張らないといけないなと思っているところです。

さて、平成も今年で最後の年になります。自分たちが医師になったのが平成2年。平成の30年はほとんど自分の医師としての時間とかぶります。医師になって最初に持たされたのは確かポケベルでした。そのうち携帯電話が普及してくると今度は病院から携帯電話を持たされました。しかし、個人が携帯電話を保有するようになると、個人用携帯電話での連絡になりました。そして今はスマホの時代。日本でラパコレが始まったのも平成の初めだったように思います。阪神淡路大震災の時は、その日は胃癌の手術があり、翌日当直をしてその当直明けで神戸まで支援に行きました。2日後ではありましたがその衝撃は忘れる事はありません。昭和は人生の序盤、平成が中盤、次の時代が終盤、となるのでしょうか。(まだ終盤というのは早いですね)

今年も岡添医師と中小病院の外科医として頑張っていきたいと思っています。どうかよろしく願いいたします。

医療法人十全会 早明浦病院

院長 古賀 眞紀子

「新年雑感」

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、豪雪に始まり、火山の噴火、地震、豪雨など、全国各地で様々な災害が発生した1年でした。

嶺北地域でも7月の豪雨では、高知自動車の立川橋が土砂崩れにより流される被害が発生しました。高速道路の橋が流されることなど、前代未聞の出来事だそうで、今なお、復旧作業が行われています。改めて、自然災害の猛威に驚くばかりです。



このごろ、皇室行事の話題が多くなってきました。1月2日の新年一般参賀では、15万人余の参賀があったと報道されています。

天皇陛下のご退位のこと国民の関心を集めているようです。陛下のご退位に伴い、もうすぐ平成も幕を閉じようとしています。次の元号は、何と決まるのでしょうか。改元を機に穏やかな年になって欲しいと願っています。

さて、去年は、診療報酬と介護報酬の同時改定がありましたが、社会保障費を抑制する観点もあって、なかなかシビアな内容です。

また、平成30年3月末に廃止期限を迎えた介護療養病床は、6年間延長され、4月には、新たな転換先の一つとして、介護医療院が創設されました。

当院も高齢者が多い地域ですので療養病床を有しています。該当する病棟については、今後、どのように展開していけば、最もベターな選択になるのか、いろいろと悩むことの多い毎日です。

外来部門につきましては、全科にわたり高知大学医学部のご支援をいただいておりますこと、第一外科教室も花崎教授を始め多くの先生方に長年にわたりご指導、ご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。

本年も引き続きご支援、ご協力のほど、お願い申し上げますとともに、併せて第一外科教室のますますのご発展と先生方のご活躍をご祈念申し上げます。

当院は、これからも地域とともに歩む病院として嶺北地域の皆様が安心して暮らせる地域づくりのお役に立ちたいと考えています。

医療法人五月会 須崎くろしお病院

理事長 田村 精平

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年が平成最後の年です。花崎教授が就任し13年目になります。医局員も徐々に増えてきています。今年もよろしくお祈りいたします。

私が医局を離れ、開業しまして34年目になります。たまに医局を訪問しましても、顔のわからない若い先生が結構いまして、時の流れを感じます。

さて、昨年4月から始まりました新専門医制度では、高知大学の内科は20名募集で3名、外科は10名募集で1名とのこと。一方、高知家総合診療専門医は5名と予想以上でした。地方には総合診療医の必要性はわかりますが、近年、外科医志望の若い先生が減少傾向にあるようで、心配です。

私が住んでいる須崎市のゆるキャラ、ニホンカワウソの「しんじょう君」は2016年ゆるキャラグランプリで日本一に輝きました。一昨年9月長崎県の対馬で、カワウソは発見されニホンカワウソではないかと騒がれましたが、残念ながらユーラシアカワウソだったようで、やはりニホンカワウソは絶滅危惧種のようなようです。

もうすぐ日本人が絶滅危惧種になる日がやってくるという論文を書いた人がいます。少子化による人口減少に歯止めがかかりません。現在日本の人口は1億2650万人ですが、30年後には1億人を切ります。40年後には9000万人を切り、100年も経たないうちに5000万人になると予想されます。高知県を見ますと、2016年出生数が5000人を切りました。私は戦後のベビーブーム真っ只中の昭和22年生まれですが、この年は2万8700人生まれています。つまり6分の1に減っている

いう事です。一方、亡くなる人は、ここ数年、年間1万人を超えています。これからもしばらくは減ることはないでしょう。更に高校を卒業し、就職や大学進学で高知県を離れる若者など社会減が毎年2000人いるそうで、毎年7000人の人口が減少していることになります。現在、高知県の人口は71万人です。21年後の2040年には53万5000人と予想されています。つまり、17万人以上減るということです。問題はその内訳です。現在高知県の高齢化率は34%ですので、高齢者人口は24万2000人です。2040年には高齢化率が40%以上になると予想され、約22万人になります。つまり、22年間で減少する17万人のうち15万人は65歳以下の労働人口ということになります。日本全体でも同様で、これを補うのは、女性、高齢者、移民、AIと言われていますが、日本の将来はどうか、国のあり方そのものを考えなければならないと思います。北朝鮮や中国が日本を攻めてくる可能性がある、この有事に備えるため、防衛費を増やさなければならないという論調を最近よく聞きますが、人口減少こそ日本の将来における「静かなる有事」だという論文の方が説得力があるように思います。

さて、外科医ですが、今後外科医の仕事はどのようなのでしょうか？

私が医師になった頃はアッペのオペが沢山ありました。右下腹部が痛ければ、そらアッペだと切っていました。今は画像診断が進歩し、また抗生剤も強力になり、手術症例は激減しました。

胃潰瘍の出血や十二指腸潰瘍穿孔も沢山あり胃切除術をしていました。H2ブロッカーができ、PPIができ、吐血や穿孔は減りました。たまにあっても、吐血は内視鏡で止血が出来ますし、穿孔は大網充填で終わりです。また、昔は交通事故で腸間膜断裂とか肝臓破裂、脾臓破裂など内臓損傷が結構ありましたが、道路事情の改善、シートベルトやエアバッグの普及で、これも減多に見なくなりました。

残りは癌しかありません。しかし、肝臓癌の一番の原因でありますC型肝炎が薬で治るようになりました。また、ヘリコバクター・ピロリ除菌が、若い世代から一般的になれば、胃がん患者はかなり減少するでしょう。そして、診断学の進歩で、胃や大腸の早期癌が多く発見されるようになりましたが、消化器内科医がEMRやESDといった内視鏡的治療をするようになりました。その他の癌も、分子標的治療、免疫チェックポイント阻害剤などの薬物治療や、陽子線治療などの放射線治療でコントロール出来るようになるかもしれません。

外科医が絶滅危惧種にならないことを祈っています。いろいろ言いましたが、高知大学 外科1が県民のために、なくてはならない存在であり続けられるよう、心からお祈りしたいと思います。

医療法人白井会 田野病院

理事長 白井 隆

平成31年、亥年、6回目の年男。

同門の皆様、新春おめでとうございます。今年は平成の最後の年、亥年、私には6回目の年男となりました。年月の経つのは早いものです。

今年は消費税増税が10月に控えています。医療関連では社会保障費の抑制、薬価の引き下げ、後発医薬品の更なる使用促進、介護医療院への病床転換、地域医療構想のための調整会議開催、医療・介護現場での人材不足、改正入管法が成立し4月から実施、7月には参議院選挙、医師の働き方改革の議論の行方はどうなるか、等々、たくさん問題があり、そしてその問題も、都道府県により状況は異なり、高知県の中でも地域により異なっています。全ての話し、全ての説明は出来ませんが、7月に予定されている参議院選挙について紙面を割かせていただきたいと思います。勤務医の皆さんは

医師会、医師会活動とはなんだろう、皆保険制度、保険診療とは何か、あまり関心のない人も多いと思われま。社会保障費の伸びが悪の根源のように、毎年毎年叫ばれています。最近は特に薬剤費が目をつけられていると言ってもいいでしょう。年金も含まれますが、医療・介護に従事する人々の給料も全て社会保障費の中に含まれています。参議院の全国区で選ばれた人の中に日本医師会の会内候補がいます。つまり日本医師会が推薦して国政の場で日本医師会の考えを伝え、理解してもらう責任を持った国会議員といえると思います。発言力を強めるためには当選するだけではダメで、いかに多くの票を獲得するか、いかに上位で当選するかが日本医師会の命運を握っていると言えます。若い医師の皆さん、勤務医の皆さんに是非とも日本医師会の会員になっていただき、広く医療のことを考えていただきたいと願っています。医師会員にならなくても、医師会の推薦する会内候補を応援することは出来ます。多くの医師が協力して皆保険制度を堅持し、より良い医療制度が確立されることを願っています。平成最後の1年が同門の皆様にとって幸多い1年である事を祈念しています。

社会医療法人近森会 近森病院

外科 八木 健

2018年度の当科診療体制は、外科1医局から派遣していただいていた宗景匡哉先生が大学に戻られて、医局からの派遣は津田晋先生1人となってしまいました。幸いそれまで非常勤医師であった塚田暁医師が常勤となり、消化器外科の人員としてはマイナス0.5人でスタートとなりました。しかし4月には呼吸器外科の山本彰医師が、8月には消化器外科の津田昇一医師が退職となり、現在は実働人員4人でなんとか切り盛りしている状態です。医局からは週1回宗景匡哉先生が手術のお手伝いに来ていただき、大変助かっております。

医療制度改革や働き方改革などで昨今の医療事情は大変厳しいものとなっておりますが、医療の質を上げて患者さんの満足度をあげるという目的は何ら変わることがありません。高知県の外科医療は、高知県内唯一の外科専門医プログラムを有する高知大学が主体となって発展させていくべきものと考えております。今回、近森病院の2名の初期研修医（富田優香医師、前田将宏医師）が高知家外科プログラムに入ることとなり、とりあえず安堵しております。来年以降も研修医にはこまめに声をかけ、診察・治療・手術をともにやり、外科手術で患者さんを治していく喜びを共有していくことが大切と考えております。

今後とも高知大学外科学講座外科1教室の発展とともに、2019年秋の花崎教授および教室最大のイベントである日本臨床外科学会総会の成功を祈念しておりますし、当科としてもできる限りのお手伝いをさせていただければと思っております。

今後ともよろしく願い申し上げます。

高知県立幡多けんみん病院

外科 副院長 上岡 教人

2018年は、当初、上岡教人、秋森豊一、徳丸哲平、志賀舞、藤枝悠希、川西泰広の6名の体制で診療を行いました。4月には、志賀舞 Dr が異動となり、5人体制で行っていましたが、7月より高知日赤から桑原道郎 Dr が加わることになり、2018年は概ね6人体制で診療をすることができました。さらに、細木病院の尾崎信三 Dr、高知大学外科1の沖豊和 Dr、高知大学がん治療センターの

前田広道 Dr、高知医療センター消化器外科 Dr に引き続き診療・手術応援をしていただき、無事に2018年を過ごすことができました。

この1年で、藤枝 Dr は全麻手術を113件（鏡視下手術43件）執刀、川西 Dr は全麻手術151例（鏡視下手術58件）を執刀し、術後管理や救急と昼夜を問わず頑張ってくれました。

2017年度、外来延患者数8718人（1日あたり35.7人）、入院延患者数11910人（1日あたり32.6人）と、ともに増加傾向でありました。

診療は、手術療法を主体に、癌化学療法、緩和療法を積極的に行っています。

手術療法は、食道、肺、乳腺、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓、肛門、鼠径部ヘルニアなどを中心に手術を行っています。2018年、当外科の手術件数は473例（全麻456例、腰麻1例、局麻16例）、緊急手術116例でした。悪性疾患は195例で、その内訳は食道癌10例、胃癌35例、大腸癌74例、乳癌36例、肝臓癌14例、胆道癌6例・膵臓癌6例などでした。良性疾患では、良性胆嚢疾患78例、鼠径および大腿ヘルニア47例、急性虫垂炎21例、腸閉塞症24例、汎発性腹膜炎20例などでした。また、鏡視下手術は174例、主に良性胆嚢疾患、食道癌、胃癌、大腸癌、鼠径ヘルニア、虫垂炎などに対して施行しました。

化学療法は術後補助も含め積極的に行っており、治療計画表に従って副作用の防止に努めながら実施しています。2017年度、入院および外来治療室で施行したのは114名（乳癌47名、大腸癌36名、胃癌14名、食道癌13名、その他4名）。治療法の内訳（重複例あり）は、BV+mFOLFOX6：5例、BV+XELOX：5例、BV+sLV5FU2：9例、BV+Xeloda：8例、BV+PTX：8例、BV+FOLFILI：10例、BV+IRIS：2例、BV+SOX：6例、BV+S-1：5例、Pmab+mFOLFOX6：2例、Pmab+FOLFILI：4例、Pmab+sLV5FU2：3例、Pmab+CPT-11：2例、RAM+PTX：9例、RAM+FOLFILI：4例、RAM単独：1例、SP：1例、FOLFILI：2例、XELOX：1例、EC：6例、TC：5例、HER+TC：1例、HER単独：14例、HER+SP：1例、HER+S-1：2例、HER+PTX：4例、HER+TC：1例、High-DoseFP+DOC：14例、weeklyTXL：3例、TXL+S-1：4例、GEM+S-1：1例、weeklyGEM：2例、weeklyアブラキサン：3例、ハラヴェン単独：3例、HP：7例、HP+DOC：2例、カドサイラ単独：1例などでした。また、S-1、UFT+LV、カペシタビンなどの経口薬にて治療を行っている患者さんも数多くおられます。今後も分子標的薬など新しい抗がん剤や治療法についてもその効果と安全性を確認した上で、引き続き積極的に取り入れていく予定です。

当院は高知県の西南端に位置し、この二次医療圏における中核的病院として、平成24年4月1日より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。地域には緩和ケア病棟やホスピスはなく、緩和ケアに関しても当院が中心的役割を果たしています。当科では、2017年度、新入院患者数622名、新入院がん患者数305名、実入院がん患者数223名、看取りを行ったがん患者数27名でした。当科での緩和ケアに関しては、まだまだ満足できる状態ではありませんが、疼痛コントロール、精神的なケアなど、病棟スタッフや緩和ケアチーム、退院調整部門の助けをかり、そして、地域の病院や訪問看護ステーションと連携をとりながら、患者さんやその家族の方々が身体的・精神的に落ち着いた時間を過ごしていただけるように努力しています。

また、地域がん診療連携拠点病院の地域への活動として、地域へのがんの啓発・教育活動にも力を入れており、2018年は、幡多ふれあい医療公開講座の中でがんの講演を4回、地域に出向いてミニ講演を行うがんの学び舎を9回、幡多地域の小・中学生を対象にがんの訪問授業を9校に行いました。

時事エッセイ 「細木病院のルーツ」

昭和61年、父が急逝してから、もう33年になる。最近、或る人から、県庁には、昔の県民の公的な歴史が残っていると言う話を聞いた。そこで、調べて貰ってみると、父は、昭和18年に、召集されて日本陸軍の軍医として入隊、激戦の地、ビルマの戦線に3年近くもの間、送られていた。昭和15年3月に名古屋帝国大学医学部を卒業した父は、卒業後、高知へ帰り、すぐに母と結婚して、高知市内の病院（当時の楠病院、後の西内病院で、今は無い）に勤務していたが、その後、高知県高岡郡の山間の越知町で内科医院を開業した。結構、患者さんには人気があったらしい。しかし、間もなく、昭和17年7月10日、教育召集を受け、香川県善通寺市の歩兵第112連隊、補充隊に応酬され、第3機関銃中隊の衛生兵に配属され、一か月後、善通寺陸軍病院（今のこどもと大人の医療センター）に転属となり、10月7日、召集解除されている。父の残した日記には、この教育期間中に、高知市の島本病院創設者の茂太郎先生と一緒に書いたと書いている。しかし、間もなく12月16日、陸軍予備員候補者として召集され、善通寺陸軍病院に衛生伍長として入隊。昭和18年5月5日、歩兵第144連隊付き軍医少尉となる。9月14日、当時、フィリピン、インドネシア、ビルマ等への出兵の一大軍港だった、九州の門司港より輸送船にて日本を離れ一路南下し、タイのバンコックに10月15日に到着。11月19日、泰緬国境を通過し、激戦のビルマ戦線へ配属される。第144連隊本部付きの軍医少尉として、12月19日、ビルマの首都、ラングーンに到着後、昭和19年1月30日から5月31日迄、「ハ号」作戦の戦闘に従軍する。その後、昭和20年8月13日迄、盤作戦に参戦、その後、ビルマからの撤退作戦である亮作戦に参戦し、敗戦に敗戦を重ね、沢山の戦友を失いながら敗走を続け、8月14日に終戦を迎え、武装解除される。ベトナムの首都サイゴン（今のホーチミン市）の捕虜収容所に収容されていたが、昭和21年4月29日、サイゴンの南の町、サンジャク（今はホーチミン市の市民の海水浴場）から復員輸送船に乗り、帰国の途に付く。5月8日、広島県大竹市に到着し、九死に一生を得て、祖国日本の土を踏む事が出来た。法律的には、5月9日、召集解除となつて、復員完結と記されている。直ちに、高知市西町の両親の元へ帰っている。戦争中は、私達兄妹は母親と一緒に高知市内を離れ、越知町の奥の五味と言う小さな部落に疎開していたが、戦争が終わると、西町へ帰って来ていた。父が復員時、軍隊の靴下に入れて、持ち帰った乾パンの中に、僅かに入っていた金平糖が、不思議なくらい甘くて美味しかった事を鮮明に覚えている。父は、帰国後、すぐに、三重県に住んでいた、144連隊での上官で親友だった、小谷啓介副官の母親へ当てて、終戦直前のビルマでの戦闘で、砲弾浴びて戦死した戦友の最期を、綿綿と書いた手紙が偶然にも残っている。自分だけが生き長らえ慙愧に堪えない心情が切々と伝わってきたが、その手紙の事は、2年前の楷風に載せて戴いた。そして、父は帰国後、まだ、体力も充分回復していないと思われる昭和21年7月1日に、高知市西町の両親の二階建ての家を少し改修して始めたのが、細木病院の前身の細木診療所である。父は、昼夜を問わず診療に励み、沢山の外来患者の診察後も、遅くまで何十件もの往診にも出掛けていたと、その頃の看護師さんに聞いている。父は、自転車には、乗れなかったので、高知市内の医師では、最初に自動車を買って往診に出掛けたようだ。ビルマ戦線の行軍で歩き過ぎているから、車にしたと聞いた事がある。開院したばかりの診療所の玄関には一匹のカニクイ猿が飼われていたが、戦線で肩の載せていた猿が懐かしかったらしい。この猿は、高知動物園が高知城の下に開設された時に、当時の竹内園長に求められて手放している。私は手を噛まれて、憎かったので、いなくなつて

ホッとしたが……。ついでに、思い出したが、その頃、動物園には象が飼われていた。小学生だった私が、この象の背中に乗せて貰った思い出が蘇った。多分、その頃の小学生では、最初だったかなあと思う。もし、父が生きて帰国していなければ、私は医師になっていなかっただろうし、当然、細木病院も無い。人生の大部分は、大きな運命に左右されて流れていると、つくづく思う。勿論、僅かな、努力は必要だけれども……。皆様も、是非、自身のご両親や先祖の生い立ちや、その頃の記録を紐解き、こんな事や、あんな事があって、今があるのだなあ……と感じて欲しい。(尚、この要旨は、社会医療法人仁生会、院内誌に掲載)

特定医療法人仁生会 細木病院

副院長 上地 一平

当院の外科は私と尾崎外科部長の二人体制でしたが、2017年より血管外科の西村先生が加わり、層が厚くなりました。西村先生には下肢虚血や静脈血栓症の患者さんを数多く見ていただいているだけでなく、消化器や乳腺の手術も手伝ってもらい、大変助かっています。

手術症例については、2018年は全麻・腰麻症例が101例ありました。当院のオープンシステムを使い、伊藤外科の安藝先生、福田心臓・消化器内科の藤島先生に来ていただくようになってから乳腺・甲状腺の手術症例が飛躍的に増加しました。(2018年は乳腺51例、甲状腺4例でした。) その代わり鼠径ヘルニア、ラパ胆、肛門疾患の症例は減少しました。胃がん、虫垂炎症例は横ばいでした。

当院は二次救急病院ですが、堀見院長が来られてから救急車の受け入れ率がアップし、救急からの入院が増加しました。当院では現在5人の研修医を抱えており、若い外科医不足が問題になっている中、外科の面白さを教えてはいますが、外科医にはなかなか来てくれないのが現状です。

私事ですが、当院の常勤医39名中、上から3番目の古株になってしまい、老眼も進む中、今後の身の振り方を考えるようになりました。外科(一)教室にはずっとお世話になりっぱなしで何の恩返しもできていませんが、今年は花崎先生が日本臨床外科学会総会の会長ということで微力ながら何かのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

イベント・Happy News

2018年イベントスケジュール

- 1月●花崎 和弘先生 日本腹部救急医学会暫定教育医・認定医 取得
- 1月●辻井 茂宏先生 日本外科学会専門医 取得
- 1月●上村 直先生 日本外科学会専門医 取得
- 1月●宗景 匡哉先生 日本消化器外科学会専門医・日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・日本消化器病学会消化器病専門医 取得
- 3月●甫喜本 憲弘先生 学位 取得
- 3月●北川 博之先生 高知大学医学部附属病院 優秀研究者賞 受賞
- 4月●石田 信子先生 入局
- 4月●花崎 和弘先生 科学研究費 基盤研究 (C) 採択
- 4月●大島 雅之先生 科学研究費 基盤研究 (C) 採択
- 4月●花崎 和弘先生 高知医療再生機構 平成 30 年度専門医養成支援事業 採択
- 4月●北川 博之先生 高知医療再生機構 平成 30 年指導医資格取得支援事業 採択
- 4月●並川 努先生 臨床治験・治験推進研究事業 (C 研究) 採択
- 4月●前田 広道先生 第 118 回日本外科学会定期学術集会
平成 29 年度若手外科医のための臨床研究助成 受賞
- 4月●大島 雅之先生 (当番会長) 第 59 回中国四国小児がん研究会 開催
- 5月●第 25 回特別講演会・楷風会総会・懇親会 開催
- 6月●特別講演会 開催
- 6月●初代教授緒方卓郎先生の奥様のご自宅にご招待いただきました。
- 7月●研修医の先生・学生さんとの懇親会 開催
- 8月●花崎 和弘先生 (当番会長) 第 38 回日本ヒト細胞学会学術集会 決定 (2020 年)
- 9月●JA 長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 飯島 靖博先生 施設見学
- 9月●花崎 和弘先生 (当番会長) 第 27 回消化器疾患病態治療研究会 開催
- 11月●津田 祥先生 第 110 回日本消化器病学会四国支部例会 研修医奨励賞 受賞
- 11月●宗景 匡哉先生 第 56 回日本人工臓器学会大会 2018 年度大会賞優秀賞 受賞
- 12月●医局忘年会 開催
- 12月●花崎 和弘先生 大阪市立大学「人工光合成研究センター」施設見学
- 12月●周術期栄養療法セミナー 開催

4月

第 118 回日本外科学会定期学術集会

前田広道先生が第 118 回日本外科学会定期学術集会で平成 29 年度若手外科医のための臨床研究助成を受賞しました。

日本で最も伝統のある日本外科学会定期学術集会で研究助成の表彰が行われ、前田広道先生が平成 29 年度若手外科医のための臨床研究助成で大変名誉な賞に表彰されました。

前田先生おめでとうございます！

今後も臨床・研究・論文執筆・後進の指導など益々の活躍を心よりお祈りしております。



4月

第 59 回中国四国小児がん研究会

大畠雅之先生が第 59 回中国四国小児がん研究会を本学で当番会長として開催しました。

2018 年 4 月 14 日に第 59 回中国四国小児がん研究会を本学で開催いたしました。

研究会では多数のご来場者を迎え、盛会のうちに閉会いたしました。

これもひとえに、皆様方のご協力とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。ご参加頂きました皆様方、ご協力頂きました関係者の方々に心より御礼申し上げます。



「特別講演」聖路加国際病院 小児外科 松藤凡先生



大畠雅之先生・松藤凡先生・坂本浩一先生・藤枝悠希先生

4月

第1回ジャングルジムセミナー

2018年4月8日に第1回ジャングルジムセミナーを開催しました。

このたび当科では女性医師のキャリアアップ支援組織として“ジャングルジムセミナー”を立ち上げました。前半は親睦をかねた外科手技セミナー、インスタ映えするランチをはさんで後半は“外科医を目指すにあたっての不安を解消しよう”をテーマに座談会形式でのディスカッションを行いました。

ご参加いただきました学生・研修医の皆様、誠にありがとうございました。また会える日を楽しみにしています。



5月

第25回特別講演会・楷風会総会・懇親会

特別講演会

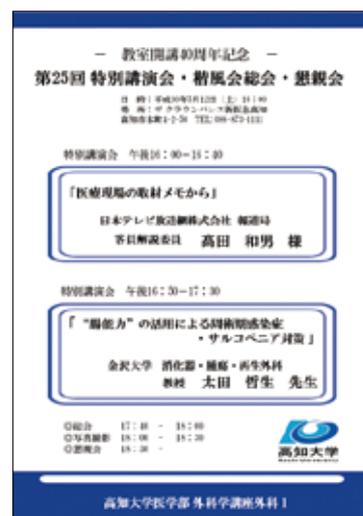
日本テレビ放送網株式会社 報道局 客員解説委員 高田和男様、
金沢大学 消化器・腫瘍・再生外科 教授 太田哲夫先生を講師にお招きしご講演いただきました。



日本テレビ放送網株式会社 報道局
客員解説委員 高田 和男 様



金沢大学 消化器・腫瘍・再生外科
教授 太田 哲夫 先生



楷風会総会



● 懇親会



会長挨拶・教室近況報告
花崎 和弘 先生



来賓挨拶
いの町立国民健康保険仁淀病院 院長
松浦 喜美夫 先生



乾杯
医療法人広正会 井上病院 院長
柏井 英助 先生

● 学位論文



高知赤十字病院
甫喜本 憲弘 先生



● 新入局員紹介



石田 信子 先生

● 表彰式



楷風会賞
北川 博之 先生



Impact Factor 賞
並川 努 先生



中締め
医療法人五月会 須崎くろしお病院 理事長
田村 精平 先生





膵癌の診断と治療：外科医として難治癌に挑む

三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 教授 伊佐地秀司先生

2018年6月20日に、三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 教授 伊佐地秀司先生を講師にお招きし6年生を対象にご講演を賜りました。

膵臓癌の診療、研究に関して第一人者であられる三重大学の伊佐地秀司先生にご講演いただきました。

難治性癌である膵癌の診療に携わってこられた伊佐地先生の外科医として、人としての歴史が凝縮された90分で、あっという間の濃密な熱い時間でした。

国家試験の勉強に追われるなかで、ついつい考えることが少なくなってしまうていた、理想の医師像や将来の展望、あるいは医師を志した気持ちを思い起こすことができたようで非常に貴重な時間をご提供いただきました。伊佐地先生ありがとうございました。



「講師」三重大学大学院医学系研究科 肝胆膵・移植外科学 教授 伊佐地秀司先生



花崎和弘先生・伊佐地秀司先生

6年生からのアンケート

国家試験に向けた勉強に追われる中で、臨床的な伊佐地先生の講義は医師となつてからのイメージ、目標を再確認できるよい機会となった。

日本および世界レベルで活躍している先生がいることを知り目指すことのできる医師像として自分も尽力したいと思った。

授業内容がとても分かりやすく学生からも理解できた。とても興味深いお話でやる気を持てる講義でした。より一層外科医を目指したいという気持ちが強くなった。



すい臓がんの外科治療

帝京大学医学部外科学講座 教授 佐野圭二先生

2018年6月22日に、帝京大学医学部外科学講座 教授 佐野圭二先生を講師にお招きし6年生を対象にご講演を賜りました。

肝臓癌の外科治療について帝京大学の佐野圭二先生にご講演いただきました。

国家試験の対策から、実際の診療について、さらには最新の研究についてまでを非常にわかりやすくご講演いただきました。今後の外科医療やAIについてもご説明いただき、外科への熱い勧誘に心を決めたあるいは揺さぶられた学生も多かったようです。

ワールドカップ、コロンビア戦勝利の3日後に行われた講演でしたが、学生たちの「佐野先生、はんぱないって!」という声がこの講演のすべてをあらわしているかと思えます。佐野先生ありがとうございました。



「講師」帝京大学医学部外科学講座 教授 佐野圭二先生



花崎和弘先生・佐野圭二先生

6年生からのアンケート

佐野先生の講義は、話し方も丁寧で頭の中にスッと入ってきてとても分かりやすく、また覚え方も添えて掲示してくださり大変勉強になった。

視覚的に様々な工夫をされていて90分間非常に興味深い講義で、自分の抜けを再確認することが出来た。

先生の講義に対するスタンスにとっても好感をもちました。ユーモアを交えながら国試に出そうな内容、最新のトピックが大変面白かったです。お金を払わずにこんな講義を聞いて最高でした。

6月

緒方卓郎先生のご自宅訪問

2018年6月25日に初代教授緒方卓郎先生のご自宅にご招待いただきました。

奥様の心あたたまる美味しい手料理をたくさんごちそうになり、思い出話にも花が咲き、とても素敵な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。



北川博之先生・緒方様(ご息女)・緒方ひなた様
花崎和弘先生・杉本健樹先生・並川努先生



7月

日本外科代謝栄養学会第55回学術集会

宗景匡哉先生・花崎和弘先生

宗景匡哉先生が日本外科代謝栄養学会第55回学術集会のワークショップで発表しました。

『術後胃排泄遅延予防を目的とした膵頭十二指腸切除術の再建における胃空腸端側手縫い吻合の有効性』

花崎和弘先生が日本外科代謝栄養学会第55回学術集会の国際シンポジウムで発表しました。

『人工膵臓を用いた周術期血糖管理の発展と外科的糖尿病の新しい治療』

7月

第73回日本消化器外科学会総会

志賀舞先生・石田信子先生

志賀舞先生が第73回日本消化器外科学会総会のワークショップで発表しました。

『消化器外科領域における男女共同参画について』

石田信子先生が第73回日本消化器外科学会総会のワークショップで発表しました。

『私の描く未来—1/2828 と 1/8630—』

7月

第2回ジャングルジムセミナー

7月1日に第2回ジャングルジムセミナーを開催いたしました。

第一部は美味しいコーヒーとケーキをいただきながらの座談会でした。女性医師年表で3人の女性外科医の歩みを見たり、ケーススタディとして妊娠・出産・育児・転勤など様々なケースを提示し、その時に取る行動を各自に選択してもらい具体的な支援策を考えてみたり、法律クイズで最低限保証されている休日や超過勤務の上限時間を知ったり（…あっという間の3時間でした。）



第2部は華珍園別館で会食を行いました。第2部からの参加者も多く、また子供たちも一緒に食事をしたため大変にぎやかな会となりました。緊張もほぐれてかなり突っ込んだ話ができ、「結婚相手を選ぶポイントは？」や「地元に戻った方が良い？」「進路・研修先の選び方は？」など本音が飛び交う会食となりました。

ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。またセミナーでお会いできることを楽しみにしております。

7月

研修医の先生・学生さんと懇親会

研修医の先生・学生さんとザクラウンパレス新阪急高知で懇親会を開催しました。

研修医の富田先生、前田先生、学生さんを囲んで懇親会を開催いたしました。暑い中でしたが食事でもビールも会話も弾み、皆さまのお蔭で大変楽しい会となりました。参加して下さった研修医・学生の皆さん、ありがとうございました!! 将来皆さまが当科を希望し仲間になってくださることを、医局員一同心より願っております。

学生さんからのご意見

先生方と試験の話や将来の仕事内容について話が出来てよかった。

将来の専門を決める参考にしたいです。

先生方のお話しを参考に今後の進路について考えたい。





第 31 回日本レーザー医学会関西地方会 並川努先生

並川努先生が第 31 回日本レーザー医学会関西地方会のシンポジウムで発表しました。

『特殊光源を活用した光線医療技術の臨床応用：5-アミノレブリン酸を用いた胃癌に対する光力学診断の有用性』



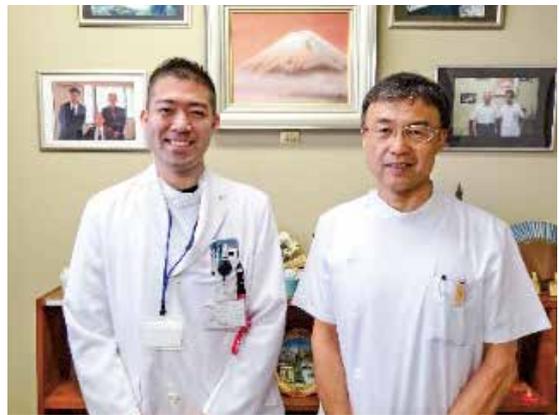
1 週間の施設見学

JA 長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院
2 年次臨床研修医の飯島靖博先生が施設見学に来てく
れました。

2018 年 9 月 10 日より長野県から飯島靖博先生が
当科主催の第 27 回消化器疾患病態治療研究会の発表
および 1 週間の施設見学にお越しいただきました。

飯島先生、この度は遠路はるばる高知までお越し
いただきありがとうございます。

これからも体調に気をつけて有意義な研修を続け
て頂くことを祈念しております。また高知でお会いできる日を楽しみにしています。飯島先生 1 週
間お疲れ様でした！



美味しい食事を頂きながら教室で、2 年目研修医の伊與田先生と飯島先生の歓迎会を開催し親睦を
深めました。

積極的に指導医や周りの医師になんでも尋ねて頂き、先生方の情熱でいろんな垣根を越え実りある
研修となることを期待しています。伊與田先生・飯島先生頑張ってください (^▽^) /



2年目研修医 伊與田比呂人先生と飯島靖博先生を囲んで
夕食歓迎会です。



第 27 回 消化器疾患病態治療研究会

花崎和弘先生が 2018 年 9 月 14 日・15 日に第 27 回消化器疾患病態治療研究会を三翠園で当番会長として開催しました。



● イブニングセミナー



地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院
座長：桑野 博行 先生



国際医療福祉大学
吉田 昌 先生



高知大学医学部 外科学講座外科 1
並川 努 先生

● ランチョンセミナー



横浜市立大学附属市民総合医療
センター 消化器病センター外科
座長：國崎 主税 先生



名古屋大学大学院医学系研究科
消化器外科学
小寺 泰弘 先生

● ランチョンセミナー 2



長崎大学大学院 医歯薬学
総合研究科 移植・消化器外科
江口 晋 先生



群馬大学大学院 医学系研究科
総合外科学講座
調 憲 先生

● 研修医アワード

福井大学医学部医学科器官制御医学
講座外科 (1) 消化器外科 乳腺外科
座長：五井 孝憲 先生

愛知医科大学内科学講座 (消化管内科)
座長：春日井 邦夫 先生



● 特別講演



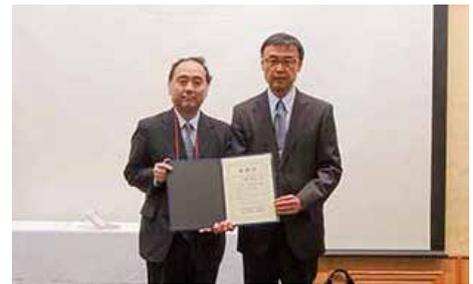
高知大学医学部附属病院
執印 太郎 先生



高知大学医学部 泌尿器科学講座
井上 啓史 先生



● 表彰式



● 全員懇親会



10月

中山沢先生が着任

10月1日に光線医療センターの特任助教として中山沢先生が着任されました。

中山先生これからよろしく願いいたします！



11月

第56回日本人工臓器学会大会

宗景匡哉先生が第56回日本人工臓器学会大会において2018年度大会賞優秀賞を受賞しました。

平成30年11月2日(金)に、参加者が一万を超える全国規模の日本人工臓器学会大会において、宗景匡哉先生が大会賞審査講演で発表した演題が優秀賞に認められ、2018年度日本人工臓器学会大会賞優秀賞に表彰されました。

宗景先生大会賞優秀賞を受賞おめでとうございます！
今後益々のご活躍を心よりお祈りしております。



11月

第110回日本消化器病学会四国支部例会

津田祥先生が第110回日本消化器病学会四国支部例会の研修医奨励賞を受賞しました。

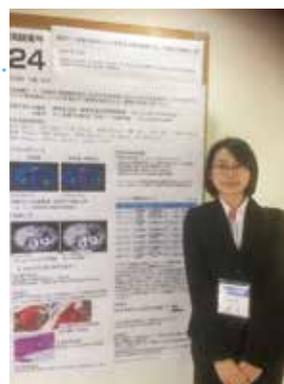
2018年11月17日の第110回日本消化器病学会四国支部例会で、津田祥先生が研修医奨励賞を受賞されました。津田祥先生研修医奨励賞受賞おめでとうございます！

今後の更なるご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



受賞コメント

この度2018年11月17～18日に愛媛県松山市で開催された、第110回日本消化器病学会四国支部例会において、研修医奨励賞をいただきました。演題は「膵頭十二指腸切除後リンパ節再発と鑑別困難であった縫合糸膿瘍の1例」です。後期研修医最後の年に、演題をこのような形で評価いただけたことを大変嬉しく思います。賞をいただけたのもご指導いただいた先生方のおかげであり、深く感謝するとともに今後も引き続き精進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



11月

第 80 回日本臨床外科学会総会 並川努先生・花崎和弘先生・志賀舞先生

並川努先生が第 80 回日本臨床外科学会総会のワークショップで発表しました。

『再発胃癌に対する薬物療法における炎症反応と栄養状態が予後に及ぼす影響』

花崎和弘先生が第 80 回日本臨床外科学会総会の第 21 回臨床研究セミナーで発表しました。

『医療機器の臨床研究：人工臓器の臨床応用』

志賀舞先生が第 80 回日本臨床外科学会総会の総会特別企画で発表しました。

『女性にも男性にも患者にも優しいユニバーサルデザイン外科を構築しよう』

11月

第 28 回外科漢方フォーラム学術集会 花崎和弘先生

花崎和弘先生が第 28 回外科漢方フォーラム学術集会のシンポジウムで発表しました。

『漢方のエビデンスを求めて：薬物動態試験（ADME）の意義』

11月

第 3 回ジャングルジムセミナー

11月25日に第3回ジャングルジムセミナーを開催いたしました。

今回は“ここが変だよ医療界”をテーマに、女性医師、医学生だけでなく看護師、保健師、公務員など多職種を交えて働き方について議論しました。

医学部入試における女性差別問題に始まり、医師・看護師・公務員…など特定の職種がすべて男性のみで占められていた場合に問題はあるのか、仕事をするうえで男女の能力差はあるのか、また育児をするうえでは能力差はあるか、など主に男女差による能力の差、向き不向きの差について議論を行いました。

同日の参加者アンケートから心に響く意見をご紹介します。「女性医師は男性と比べて生産性がないと言われ入試では差別される。一方で子供を産まない女性は生産性がないとも言われる。いったいどうしたらよいのか。」

どうしたらよいのか、皆で考えてまいります。





医局忘年会



医局忘年会を開催しました。

12月1日に城西館で医局忘年会を開催しました。毎年恒例のビンゴ大会や余興も盛りだくさんで、大盛況のうちに閉会となりました。

1年を締めくくり、新しい年のスタートにつながる素晴らしい会となりました。

参加して頂いた皆様、幹事の石田先生、当直・夜勤等で参加できなかった先生方も含め、皆様1年間本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



乾杯・花崎 和弘先生 中締め・杉本 健樹先生



人工光合成研究センターを訪問

光線医療センター花崎和弘センター長と井上啓史副センター長が、12月10日に大阪市立大学「人工光合成研究センター」を訪問し施設見学させていただきました。

本センターの現時点のミッションであります、①本センターから世界に先駆けた多数の研究業績を世界に発信していく、②本センターを全国の光線医療研究の中心となる拠点施設にする。

本センターの特徴をフルに活用し、ミッションを達成するために執印病院長および井上副センター長らのご尽力のもと、様々な取り組みを積極的に展開しております。今後、高知大学が発展し、高知県民に最高の地域医療を提供することができたら望外の喜びです。

センター長 天尾 豊先生、特命教授 大倉 一郎先生、特別研究員 南後 守先生、大変貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。



12月 周術期栄養療法セミナー

12月14日に周術期栄養療法セミナーを開催し、藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授 東口高志先生にご講演を賜りました。

栄養の世界で雲の上の存在とも言われているトップリーダーの東口高志先生にお越しいただきました。先生のお話は大変分かり易く、時にはユーモアがあり、とても楽しくお話を聞かせていただきました。高齢社会の現状と栄養の大切さについて、改めて栄養の重要性を実感しました。参加者からは「刺激的でとても面白かった！もっとお話を聞きたい」との声も多く寄せられ大変貴重なお時間をいただきました。

東口先生、高知までお越しいただき本当にありがとうございました。

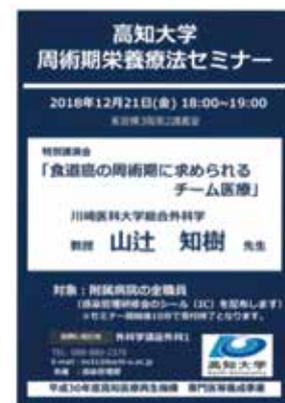


12月 周術期栄養療法セミナー

12月21日に周術期栄養療法セミナーを開催し、川崎医科大学総合外科学 教授 山辻知樹先生にご講演を賜りました。

周術期で今最も活躍している著名な山辻知樹先生にお越しいただきました。先生のお人柄を感じる心温まるお話は、時間があっという間に過ぎるほどとても分かりやすく、引き込まれる内容でとても勉強になりました。モノが溢れている今の時代でも、最終的には人と人との繋がりが大切であることは変わらないのだと、改めて分かりました。

山辻先生、高知までお越しいただき本当にありがとうございました。



第 13 回楷風会賞 受賞者

第 13 回楷風会賞を受賞して

並川 努

この度は栄えある第 13 回楷風会賞受賞の機会をいただきまして誠にありがとうございました。花崎教授ならびに同門の先生方に厚く御礼申し上げます。受賞させていただき喜びとともにその重責を深く感じております。

花崎教授の薫陶を授かり消化器疾患のみならず乳腺内分領域においても診断、治療に関わる研究を論文、学会等で発表させていただくことができましたのは、教授をはじめ関連各位の先生方のご指導あってこそできることと思っております。また、2018 年は 260 の英語論文の査読依頼を与えていただくことができました。全ての論文を査読させていただくことはなかなか困難でしたが、このような仕事を与えていただくことは大変に光栄なことであり、できるだけ新しい論文の創出に寄与できるように頑張りたいと存じます。

浅学非才な私にとっては、一つの仕事を仕上げていくのに非常に時間のかかることであり、時には何を信じていいのかわからなくなり向かうべき道に迷うことがしばしばあります。あるカリスマ的な著名人がとある大学の卒業式で述べたスピーチの中に You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So, you have to trust that the dots will somehow connect in your future. という一節があります。その時はどうなるかわからず取り組んできたことも振り返ってみると彼の偉大な業績につながっていることを点と線に例えて教授しており、大変に勇気付けられるように思います。どんなことも決して無駄なことはなく、信念を持って今できることを一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っております。

高知大学、高知県の医療のために今できること、なさなければならぬことを思考しながら診療、教育、研究に取り組み、さらなる精進を重ねてまいりたいと思っております。今後とも御指導、御鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

第 13 回 楷風会賞受賞者選考に当たって

花崎 和弘

該当年度に一番 activity の高い学術的活動を行った楷風会員に贈られる楷風会賞の 13 回目の受賞者は、並川 努先生（講師・病院准教授）を選考させていただきました。

選考の理由を述べさせていただきます。並川先生は対象となる 2018 年 1 月より 12 月までの 1 年間に、多忙な臨床・研究・教育の毎日にも関わらず、10 編の筆頭英語論文を Gastric Cancer をはじめとする著名な国際誌に発表しました。

並川先生はご自身の研究だけでなく、後輩たちの研究および論文指導にも積極的に関与し、研究の面白さや英語論文作成のコツを伝授している点も高く評価しています。総合インパクトファクター数は 400 を超え、筆頭論文だけのインパクトファクター数も 200 を超えています。

特に近年は専門の胃癌の手術成績に関する臨床研究だけでなく、光線医療センター関連の研究や人工臓器関連の研究など多岐にわたり幅広い学術的活動を精力的に実施し、その成果を全国へ世界へと発信しています。

その功績が認められて、2018 年 11 月に開催された胃外科・術後障害研究会において世話人に推挙されました。全国規模の学術集会の世話人に有名な教授陣に混じって講師の立場から推薦されるのは珍しく、並川先生の胃外科分野での目覚ましい研究成果と臨床能力が高く評価された賜物と大変嬉しく思っています。また本年当科で開催させていただいた第 27 回消化器疾患病態治療研究会においては事務局長として大活躍して、研究会を成功に導いてくれました。

以上の優れた学術的活動に対し、第 13 回楷風会賞を並川先生に授与します。

生真面目かつ謙虚なお人柄で教室員からの信頼も厚い先生です。これからも教室員の良きお手本となって精進を重ねていただきたく存じます。

第13回 Impact Factor 賞 受賞者

第13回 Impact Factor 賞を受賞して

並川 努

この度は第13回 Impact Factor 賞受賞の機会をいただきまして誠にありがとうございました。花崎教授ならびに同門の先生方に厚く御礼申し上げます。身に余る大変に光栄なことに感激しております。

今回、胃癌に関する論文「Prognostic significance of serum alkaline phosphatase and lactate dehydrogenase levels in patients with unresectable advanced gastric cancer」を Gastric Cancer 誌に掲載していただくことができました。癌に関わる診療をさせていただく中で、その診療時期に応じた最適な治療を患者さんに提供することは非常に大切です。臨床病理学的な進行度のみならず、何らかの予後予測に関するバイオマーカーの策定は重要な課題であると考えられます。日常診療においてアルカリフォスファターゼや乳酸脱水素酵素は馴染みのある検査項目ですが、肝機能指標や細胞逸脱酵素としてのみならず、胃癌患者においては有意な予後予測因子となることをこの論文で示しています。日常診療において薬剤耐性となったり、有害事象のため治療薬物の変更を考える場面は多々ありますが、その最適な変更時期決定のためにこれらの指標が役立てられる可能性はあります。特に腹膜播種の多い癌腫である胃癌においては、画像検査だけでは病勢進行にあるかどうか悩ましいことをしばしば経験しますが、そのような時にこれらの指標が参考となるかもしれません。

医療は医学の延長線上に位置付けられるものと思いますが、日常における様々な事象を先入観に支配されることなく、観察、考えることで、より良い医療を患者さんに提供できるように謙虚な姿勢で臨床にあたりたいと思っております。今後さらに研究の発展に寄与できるように精進して参りたいと存じます。この度は誠にありがとうございました。

第13回 Impact Factor 賞受賞者選考に当たって

花崎 和弘

該当年度に最も Impact Factor (IF) の高い雑誌に論文掲載が認められた楷風会員に贈られる IF 賞の13回目の受賞者は、4年連続で並川 努先生となりました。並川先生は楷風会賞とのダブル受賞となります。誠にめでたうございます。

選考の理由ですが、選考対象となる2018年1月より12月までに掲載または受理された論文の中から、並川先生の論文 (Gastric Cancer) が2017年 journal citation report より一番高い IF 値を有していたためです。

楷風会賞受賞者の欄でもご紹介させていただきましたが、並川先生の研究業績は今更言うまでもなく、教室の目標である「すべての研究は英語論文で完結」を見事に具現化している高知大学を代表する Academic Surgeon です。

能力も実績も人望も無い小生が13年の長きにわたり外科学講座の教授を全うできているのは幸運に助けられた面も多々ありますが、何よりも優秀な教室員に恵まれたの一言に尽きます。その中でも毎年10編前後の筆頭英語論文を、publish し続けてくれている並川先生は最大の功労者であります。本当にありがとうございます。

学外研修報告

高知赤十字病院

宇都宮 正人

早いもので、高知日赤病院に勤務し8か月が経とうとしています。最初は電子カルテなどシステムの違いに戸惑いましたが、ようやく慣れてきて、どうにかこうにかやっております。高知日赤病院は徳島大学系列の病院で、先生方も徳島大学御出身の方がほとんどです。消極的な私としては、うまくコミュニケーションをとっていけるか不安でしたが、他科の先生方との垣根も低く、現在は色々な先生方、看護師さんにかわいがっていただいております。

緊急手術を含め手術件数が非常に多く、毎日は大変ですが、その分体調管理に気を付けて、少しでも高知日赤の医療に貢献できればと思う所存です。腹腔鏡手術が盛んで、そのノウハウを高知大学病院にいずれ還元していければと思います。これからも御指導、御鞭撻の程宜しく御願い致します。

幡多けんみん病院

川西 泰広

2017年4月に幡多けんみん病院へ異動となり、約2年が経ちましたが、充実した毎日を送っています。上岡先生、秋森先生、徳丸先生に加えて今年度赴任された桑原先生の指導の下、同期の藤枝とともに研修を行っております。手術に関しては、2018年は153例の執刀を経験させていただきました。昨年と比べると胃癌、大腸癌の執刀も少しずつ増えてきました。1例1例を大切に、安全第一で今後も頑張りたいと思います。

私生活では長男が誕生し、母親の偉大さと、父親の無力さを痛感しています。

今年は外科医としてはもちろんのこと、人間としても一人前になるべく努力していきたいと思いません。何卒よろしく御願いいたします。

幡多けんみん病院

藤枝 悠希

幡多けんみん病院で働き始めて、あっという間に2年が経ちました。多くの先生方にご指導頂きながら執刀や論文・学会発表などを経験させて頂き、充実した毎日を過ごしています。昨年より腹腔鏡下の結腸切除術や胃切除術などを執刀させて頂く機会も増え、幡多けんみん病院で勤務できる幸せを、日々とても感じています。

2018年度は同期みんなで外科専門医予備試験に合格できたことが嬉しかったです。来年は本試験に合格できるよう頑張りたいと思います。私は2019年4月から、兵庫県立こども病院で研修させて頂くこととなりました。不慣れな大都会ですし、周りにほとんど知り合いがないという環境で、今からドキドキし通しです。本格的に小児外科の勉強を始めるに当たって、今までにご指導いただいたことを忘れずに、帰ってきた際には高知の小児外科に貢献できるように、しっかり努力していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく御願いいたします。



近森病院

津田 晋

入局3年目、近森病院赴任2年目になりました。

2018年の近森病院は常勤医師が3人退職し、少ない人数で非常に忙しい毎日ですが、なんとか明るさを失わず日々の診療に従事しています。

今年度は近森病院初期研修医から2人の先生が外科一に入局してくれることになり、大変うれしく思っています。来年度も多くの初期研修医の先生が外科をローテーションしてくれる予定です。1人でも多くの先生に外科の魅力を伝えられるよう頑張ります。

学外近況報告

仁淀病院

志賀 舞

2018年1月30日、志賀家の三男が誕生しました。私の外科医人生は、妊娠・出産・育児とずっと隣りあわせです。2018年度は、次男出産時にもお世話になった仁淀病院で再び勤務させていただくこととなりました。8年前と比較すると育児支援制度はずいぶん広がっていると感じます。育児休業中に臨時的勤務が可能な制度を利用して7月、8月には手術もさせていただきました。9月からは1日1時間の育児休業を利用して職場復帰しております。

仁淀病院では6月まで、慈恵医科大学医局の先生方が積極的に腹腔鏡手術を行っていらっしゃいました。現在は私と松浦先生の二人体制のため、胃がん、大腸がん、乳がんの手術につきましては、患者様の希望を伺った上で、並川先生、岡本先生、杉本先生のお力をお借りして質の高い手術を提供できるよう努めております。

当院では内科医が不足していることから、内科疾患の救急、入院、併設する介護施設入所者の医学的管理なども行っています。また、地域住民の生活に密着した医療が求められるため、介護や福祉のサービスについてなど勉強することがたくさんあります。

これからも自分のペースでスキルアップしていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



医療法人仁栄会 島津病院

西家 佐吉子

平素より花崎教授をはじめ外科学講座外科1教室の先生方には大変お世話になり、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

また、当院で対応が困難な症例もいつも迅速に対応して下さり、重ねて誠に感謝申し上げます。

今年度の手術症例は、血液透析のためのシャントバスキュラーアクセス関連219例と腹膜透析のためのCAPDカテーテル留置術1例でした。

技術の進歩により、長期透析が可能になってきたためバスキュラーアクセス作成困難例が目立つようになりました。

少しでも長い間、血管を使わずに透析するという意味でも、自宅でできる腹膜透析にて透析を導入した方がよいのですが、高知県民の気質にあわないためか、勧めても腹膜透析をやってくださる患者さんはいらっしゃいません。特に郡部の患者さんは、週3回の透析を1時間30分以上かけて通院されたり、通える場所に引っ越されたりと苦勞がつきないので、腹膜透析の方が利便性が高いと考えられていますが、自分で全てをしないとイケないとなると、尻込みしてしまうようです。

腹膜透析は、実際に CAPD カテーテルを留置して、透析を開始しなければどれくらいの透析が実際にできるかわかりませんし、清潔操作ができないとすぐに感染を起こすので、最初から腹膜透析の対象となる患者さんも限られるのが現状です。

iPS 細胞による腎臓再生が実用化されるまでは、透析医療に関わる問題は尽きないのが現状です。

2019 年は 11 月に第 81 回日本臨床外科学会総会が高知で開催され、外科 1 の皆様、高知県にとって素晴らしい年となりそうです。

外科 1 教室のますますの御発展と先生方の御活躍をお祈り申し上げます。

微力ながら尽力させていただき所存でございますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

久留米大学外科学講座小児外科部門

助教 橋詰 直樹

本年も久留米大学外科学講座小児外科部門にてお世話になり、約 260 例の手術に関して執刀や助手に携わりました。昨年よりも少し症例は少なかったですが、新生児手術や難治性疾患が多く濃い 1 年であった印象です。

学術活動としては、5 月にアジア静脈経腸栄養学会（韓国）に参加し、以前より取り組んでいた体組成分析を用いた重症心身障害者の至適栄養カロリーの測定を報告しました。本研究は Travel Grant に選んでいただき、発表内容は先日 publish されました（Hashizume et al, Brain and Dev, in press 2018）。また corresponding として指導することも多くなり、熱心な後輩のおかげで原著 2 編（うち英文 1 編）、症例報告 3 編（うち英文 2 編）の成果が出たことは嬉しい出来事でした。基礎研究も並行して行なっておりますが、臨床外科学会内の第 28 回外科漢方フォーラムで報告をしましたがまだ論文化までに至っていない所もあり、悩みの種です。

2019 年は久留米大学で 5/23-25 に第 56 回日本小児外科学会学術集会を予定しています。そのため、小児外科学会の庶務委員補佐として今年から理事会や運営に携わるようになりました。事務局を通して勉強になる経験をさせてもらっています。また第 24 回日本小児外科漢方研究会を大畠雅之先生が会長をなされます。私も研究会事務局を行なっておりますので、少しでもお役に立てたらと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

高知赤十字病院

第二外科副部長 甫喜本 憲弘

平素より花崎教授をはじめ外科学講座外科 1 の先生方には大変お世話になっております。

2012 年 4 月より高知赤十字病院外科に赴任して以来、早くも 7 年が経過しました。

日常診療は主に乳腺甲状腺疾患を担当しておりますが、当院は救急に力を入れているという特性上、救急で来る消化器疾患（虫垂炎・胆嚢炎・腹膜炎など）も外科 1 でご指導いただいた経験をもとに携わっています。

赴任後しばらくの間は乳腺甲状腺領域の上司である藤島先生がおられ、そのご指導のもと、のびのびとやらせていただいております。しかし、その藤島先生の定年退職に伴い、2016 年 9 月からは 1 人体制で乳腺甲状腺疾患を担当することとなり、現在は日々診療に追われている状態です。

■ 乳腺・甲状腺手術件数

1. 乳腺	2017年度	2016年度
乳癌	26件	35件（両側乳癌2件）
乳房温存術	3件	15件
乳房切除術	23件	20件（両側乳癌3件）
温存率	12%	43%
良性疾患	2件	1件
腋窩郭清	1件	2件
乳房再建	4件	0件
2. 甲状腺		
甲状腺癌	16件	5件
全摘術	5件	1件
葉切除術	11件	4件
良性疾患	8件	5件
副甲状腺疾患	3件	3件
リンパ節郭清のみ	0件	3件

大学ほど乳腺甲状腺領域の手術件数があるわけではないので、大学の先生方と比べるとそれほどでもないのかもしれませんが、やはり1人診療での重圧は想像以上であり、杉本先生や藤島先生の偉大さを痛感しつつ、高知大学と徳島大学の若手 Dr. にも助けてもらいながら、日常診療と救急疾患を頑張っております。

現在当院は5月6日の新病院開院に向けて準備中であり、引っ越しや患者さんの移送、前後の診療体制の混乱などを考えて戦々恐々としております。大学病院ならびに地域の医療機関の皆様にご迷惑をおかけすることになりますが、開院後はそれを取り返すべく頑張りますので、よろしくお願いたします。

最後に私事ではございますが、2017年10月に博士論文のアクセプトをいただき、2018年3月に無事大学院を卒業できました。2006年に入学しておりますので、恥ずかしいことに卒業までに12年かかっております。かなり難産な博士論文でしたが、これもひとえに最後まで見放さずご指導いただいた花崎教授、並川先生をはじめ、多くの先生方のおかげと感謝しております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

医局事務より

事務補佐員

川村 麻由

2018年は一年という区切りで平成最後の年となりました。昨年は日本各地で台風、猛暑、豪雨、地震と数多くの自然災害や異常気象が起り、普通に生活ができ当たり前に毎日が来ることが、これほどに自然の大きな力に恩恵を受け、守られているということ、一日一日をきちんと大切に過ごさなければならない、と私自身考えさせられました。災害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、2018年の外科一教室はますます勢いが増し活気溢れる年となりました。4月に石田信子先生が入局され、一段と医局はフレッシュさと活気がでました。同月には科研費を花崎先生、大島先生が採択され、現在は並川先生も含め3名の先生が科研費を獲得されています。14日、大島先生が第59回中国四国小児がん研究会を本学で当番会長として開催し、9月には花崎先生が第27回消化器疾患病態治療研究会を三翠園で当番会長として開催しました。演題数は過去最多を更新され、参加された先生方からは「大満足」「楽しかった」といった嬉しい声もたくさん上がっており、私自身も会に携わらせていただき、心に残る貴重な経験と勉強をさせていただきました。本当にありがとうございました。

医局の先生方は、一日一日を見ても一年を通して本当によく頑張っておられます。また、花崎先生の利他の心は、身近にいる私にとってはいつも心を打たれるものがあり、常に勉強をさせていただいています。今年は、いよいよ本番の臨床外科学会開催の年となりますし、他にも大島先生や並川先生と複数の学会も控えております。私たち医局事務員は現在3名で働かせていただいておりますが、まだまだ未熟で先生方のお力になれていません。ですが、一步一步、着実に、真摯に、丁寧に、そして謙虚と感謝の心を忘れず、この3名で力を合わせ、目指せ“オールラウンドプレーヤー”で頑張っ

て参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

事務補佐員

菅野 真由

7月から育児より復帰いたしまして、三度目の年報となりました。今まで以上にあっという間に時間が過ぎ、限られた時間のなかで、仕事と私生活を充実させるためには、日々の時間管理が大切だと身に染みて感じているところです。

実務期間としてはようやく一年が過ぎましたが、状況を判断し、考え行動するということの難しさと自分の至らなさを感じることも多々ありました。花崎先生を始め医局の先生方、一緒に事務をしている川村さん、梶原さんにはいつも助けて頂いて大変感謝しております。まだまだ勉強することが多くありますが、丁寧に、効率的に業務が進むよう、一つずつ経験を積んで成長していきたいと思っております。

2019年はいよいよ高知で第81回日本臨床外科学会が開催されます。大会が盛会に終わられるよう、精いっぱい取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

昨年の4月中旬より外科1の事務補佐員としてお世話になり、あっという間に1年が経とうとしています。振り返ってみると、日々目の前に展開される様々な仕事に悪戦苦闘をしながらも必死に取り組んできました。その一方で花崎先生をはじめ医局の先生方、教室の先輩の川村さん・菅野さんには沢山ご迷惑をお掛けいたしました。また適切なアドバイスやご指導をしていただき、本当にありがとうございました。

2019年11月14日から16日に第81回日本臨床外科学会総会が高知で開催されます。万全の態勢で実りある総会となりますよう取り組んでまいります。まだまだ至らない点があるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

毎年言ってるような気がしますが、この1年もあっという間に過ぎました。一年経つのが年々早くなってきています。私が医学部で事務としてお世話になることが決まった時に、

小学校へ入学した長男も、4月からは高校3年生です。そう考えると、事務として長く勤め、年数だけでいくとベテランのような気がしますが……(?) そんなことは全くなく、変わっていくシステムや事務仕事に奮闘しながらも日々勉強させていただいております。

平成が終わり新しい元号になるという、何か大きく変わる年ではありますが今年も事務として丁寧で的確な仕事をするのが先生方へのサポートと思っておりますので、今後ともご指導お願いいたします。

手術件数

● 手術件数調査票（2018年1月～12月）

高 知 大 学		
手 術		
		鏡視下手術
甲状腺	30	
乳腺	151	
肺、縦隔		
食道	25	19
胃、十二指腸	84	43
肝臓	32	
胆道	39	37
膵臓	11	1
脾臓	1	
虫垂	7	5
ヘルニア	55	24
イレウス	14	
小腸	3	
大腸	104	96
肛門	2	
小児	102	54
その他	67	2
合 計	702	230

● 手術件数調査票 (2018年1月～12月)

病院名	手術	甲状腺	乳腺	肺・縦郭	食道	胃・十二指腸	肝臓	胆道	膵臓	脾臓	虫垂	ヘルニア	イレウス	小腸	大腸	肛門	小児	その他	合計
あき総合病院			26	4		12	1	40			9	39	5		16	1		99	252
	うち 鏡視下		4				19				1			1			1	26	
愛宕病院						1		7			2	16	1	4	8			24	63
	うち 鏡視下				1		6		2					4				13	
いずみの病院		3	12			2		3			3	8	1	2	5			11	50
	うち 鏡視下						3		2					3				8	
渭南病院						8		10				13		1	15	3		1	51
	うち 鏡視下				7		8							12				27	
くぼかわ病院						1					2	5			3				11
	うち 鏡視下														1				1
くろしお病院						2		4			4	7	1		5	2		16	41
	うち 鏡視下																		
高知生協病院		2	32			7		10			3	11	1		11	5		36	118
	うち 鏡視下						9		3	1				6				19	
島津病院																		220	220
	うち 鏡視下																		

病院名	手術	甲状腺	乳腺	肺・縦郭	食道	胃・十二指腸	肝臓	胆道	膵臓	脾臓	虫垂	ヘルニア	イレウス	小腸	大腸	肛門	小児	その他	合計
竹下病院												7	1		4	8		10	30
	うち鏡視下													3				3	
田野病院					1	6	1	13			4	6	5	3	14	15		7	75
	うち鏡視下						2			2	2			2			1	9	
近森病院		1	7	8	1	60	24	130	12	1	54	66	19	40	88	37		26	574
	うち鏡視下		7	1	18	2	116	1		52	37	6	5	38	1		6	290	
千葉西総合病院			72	73	11	75	27	164	13	2	125	158	52	41	234	4	12	159	1222
	うち鏡視下		67	9	53	16	157	3	1	120	113	41	10	205		12	16	823	
仁淀病院			3	1		4		5			2	21	1		7	2		25	71
	うち鏡視下			1				5			1	1			3				11
野市中央病院												2						3	5
	うち鏡視下																		
幡多けんみん病院			36	3	10	44	15	84	5		21	57	26	9	89	4	(9)	70	473
	うち鏡視下		3	10	25		69			6	12	3	1	43			2	174	
細木病院		4	51			4		1			8	12		1	12	8			101
	うち鏡視下						1							1				2	

業績：論文発表（2018.1～2018.12）

[英語論文]

論文

	著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub 年月日
1	Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K.	Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan:results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part I: Working style	Surg Today	48 (1)	33-43	2018.1	
2	Sunao Uemura, Tsutomu Namikawa, Hiroyuki Kitagawa, Jun Iwabu, Kazune Fujisawa, Sachi Tsuda, Hiromichi Maeda, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki	Bile leakage after cholecystectomy in a patient with cholecystohepatic duct : a case report	Ann. Cancer Res. Ther	26 (1)	7-10	2018.1	
3	Namikawa T, Maeda H, Kitagawa H, Oba K, Tsuji A, Yoshikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K.	Treatment using oxaliplatin and S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage III gastric cancer: a multicenter phase II study (TOSA trial) protocol.	BMC Cancer.	18 (1)	186	2018.2	
4	Matsuo N, Matsumoto K, Taura Y, Sakakibara Y, Taniguchi D, Takagi K, Yamane Y, Obatake M, Yamasaki N, Nagayasu T	Initial experience with a 3D printed model for preoperative simulation of the Nuss procedure for pectus excavatum	J Thorc Dis	10 (2)	E120- E124	2018.2	
5	Hokimoto N, Sugimoto T, Namikawa T, Funakoshi T, Oki T, Ogawa M, Fukuhara H, Inoue K, Sato T, Hanazaki K	A Novel Color Fluorescence Navigation System for Intraoperative Transcutaneous Lymphatic Mapping and Resection of Sentinel Lymph Nodes in Breast Cancer: Comparison with the Combination of Gamma Probe Scanning and Visible Dye Methods.	Oncology	94	99-106	2018.2	
6	Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Uemura S, Fujisawa K, Tsuda S, Kobayashi M, anazaki K	Outcomes of abdominal esophageal cancer patients who were treated with esophagectomy	Molecular and Clinical Oncology	8	286-291	2018.2	

	著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub 年月日
7	Maeda H, Okamoto K, Oba K, Shiga M, Fujieda Y, Namikawa T, Hiroi M, Murakami I, Hanazaki K, Kobayashi M.	Lymph node retrieval after dissolution of surrounding adipose tissue for pathological examination of colorectal cancer.	Oncol Lett.	15 (2)	2495-2500.	2018.2	
8	Hiroyuki Kitagawa, Tomoaki Yatab, Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, Sunao Uemura, Kazune Fujisawa, Sachi Tsuda, Hiromichi Maeda, Michiya Kobayashi, and Kazuhiro Hanazaki	Tracheobronchial anomaly: one-lung ventilation difficulty during thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer	Ann. Cancer Res. Ther.	26 (1)	33-35	2018.1	
9	Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, Dabanaka K, Hanazaki K, Saibara T.	BCL7B, a predictor of poor prognosis of pancreatic cancers, promotes cell motility and invasion by influencing CREB signaling.	Am J Cancer Res.	8 (3)	387-404	2018.3	
10	Namikawa T, Fujisawa K, Munekage E, Munekage M, Oki Y, Maeda H, Kitagawa H, Ueta H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Epstein-Barr virus-associated early gastric carcinoma with lymphoid stroma, accompanied with lymph node metastasis	Mol Clin Oncol.	8 (4)	561-566	2018.4	
11	Kanda M, Oba K, Aoyama T, Kashiwabara K, Mayanagi S, Maeda H, Honda M, Hamada C, Sadahiro S, Sakamoto J, Saji S, Yoshikawa T; Japanese Foundation for Multidisciplinary Treatment of Cancer.	Clinical Signatures of Mucinous and Poorly Differentiated Subtypes of Colorectal Adenocarcinomas by a Propensity Score Analysis of an Independent Patient Database from Three Phase III Trials.	Dis Colon Rectum.	61 (4)	461-471.	2018.4	
12	Namikawa T, Kawanishi Y, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Serum carbohydrate antigen 125 is a significant prognostic marker in patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer.	Surg Today.	48 (4)	388-394	2018.4	
13	Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Fujisawa K, Uemura S, Tsuda S, Hanazaki K.	Assessment of the blood supply using the indocyanine green fluorescence method and postoperative endoscopic evaluation of anastomosis of the gastric tube during esophagectomy.	Surg Endosc..	32 (4)	1749-1754	2018.4	
14	Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Superficial Spreading-type Gastric Cancer with Situs Inversus Totalis.	In Vivo.	32 (3)	685-689	2018.5	

著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub年月日
15 Iwabu J, Namikawa T, Tsuda S, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Successful Distal Gastrectomy for Gastric Cancer with Child-Pugh Class B Alcoholic Liver Cirrhosis.	Anticancer Res.	38 (5)	3085-3087	2018.5	
16 Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K.	Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part. 2:personal life.	Surg Today	48 (3)	308-319	2018.5	
17 Yamamoto M, akashima J, Iguchi M, Tashiro M, Noguchi T, Hiroi M, Inoue K, Hanazaki K, Orihashi K.	Multiple coronary and cerebral aneurysms in a patient with chronic thromboangiitis.	J Cardiol Cases.	18 (5)	160-163	2018.6	
18 Yamamoto M, Ninomiya H, Tashiro M, Nishimori H, Inoue K, Sato T, Hanazaki K, Orihashi K.	A Case of Anastomotic Stenosis of a Peripheral Arterial Bypass Graft Undetected in Indocyanine Green Angiography.	Ann Vasc Dis.	11 (2)	233-235	2018.6	
19 Namikawa T, Munekage M, Yatabe T, Kitagawa H, Hanazaki K.	Current status and issues of the artificial pancreas: abridged English translation of a special issue in Japanese.	J Artif Organs.	21 (2)	132-137	2018.7	
20 Mayanagi S, Kashiwabara K, Honda M, Oba K, Aoyama T, Kanda M, Maeda H, Hamada C, Sadahiro S, Sakamoto J, Saji S, Yoshikawa T.	Risk Factors for Peritoneal Recurrence in Stage II to III Colon Cancer.	Dis Colon Rectum.	61 (7)	803-808	2018.7	
21 Iwabu J, Namikawa T, Kitagawa H, Fujisawa K, Oki T, Ogawa M, Iwai N, Yano A, Kuriyama M, Sugimoto T, Hanazaki K.	Spontaneous rupture of abdominal wall after breast reconstruction using deep inferior epigastric perforator flap following mastectomy for breast cancer.	Surg Case Rep	4 (1)	83	2018.7	
22 Maeda H, Okamoto K, Namikawa T, Shiga M, Fujisawa K, Tadokoro M, Hanazaki K, Kobayashi M.	Successful Laparoscopy-Assisted Resection of the Descending Colon in a Patient with Multiple Large Renal Cysts and Stricture of the Colon due to Ischemic Colitis.	Case Rep Gastroenterol.	12 (2)	540-545.	2018.8	
23 Sugase T, Takahashi T, Serada S, Fujimoto M, Ohkawara T, Hiramatsu K, Koh M, Saito Y, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Kurokawa Y, Yamasaki M, Nakajima K, Hanazaki K, Mori M, Doki Y, Naka T.	Lipolysis-stimulated lipoprotein receptor overexpression is a novel predictor of poor clinical prognosis and a potential therapeutic target in gastric cancer.	Oncotarget.	9 (68)	32917-32928	2018.8	

著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub年月日
24 Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Pathological Complete Response by S-1 Chemotherapy in Advanced Gastric Cancer.	In Vivo.	32 (5)	1211-1216	2018.9	
25 Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Conversion surgery after S-1 plus oxaliplatin combination chemotherapy for advanced gastric cancer with multiple liver metastases.	Clin J Gastroenterol.	11 (4)	297-301	2018.9	
26 Namikawa T, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Iguchi M, Murakami I, Kobayashi M, Hanazaki K.	Intrahepatic bile duct adenoma in a patient with gastric cancer.	Int Cancer Conf J.				2018.9 [Epub ahead of print].
27 Nishikawa K, Tsuburaya A, Yoshikawa T, Takahashi M, Tanabe K, Yamaguchi K, Yoshino S, Namikawa T, Aoyama T, Rino Y, Kawada J, Tsuji A, Taira K, Kimura Y, Kodera Y, Hirashima Y, Yabusaki H, Hirabayashi N, Fujitani K, Miyashita Y, Morita S, Sakamoto J.	A phase II trial of capecitabine plus cisplatin (XP) for patients with advanced gastric cancer with early relapse after S-1 adjuvant therapy: XParTS-I trial.	Gastric Cancer.	21 (5)	811-818	2018.9	
28 Masaki Yamamoto, Tadashi Isomura, Kazumasa Orihashi, KOhei Miyashita, HIroaki Kitaoka, Kazuhiro Hanazaki, Naohito Yamasaki	Myocardial infarction-related left ventricular rupture with the tear across the ventricular wall detected on echocardiography	General Thoracic and Cardiovascular Surgery				2018.10.17
29 Iwamoto S, Maeda H, Hazama S, Oba K, Okayama N, Suehiro Y, Yamasaki T, Suzuki N, Nagano H, Sakamoto J, Mishima H, Nagata N.	Efficacy of CapeOX plus Cetuximab Treatment as a First-Line Therapy for Patients with Extended RAS/BRAF/PIK3CA Wild-Type Advanced or Metastatic Colorectal Cancer.	J Cancer	18;9 (22)	4092-4098	2018.10	
30 Maeda H, Okada KI, Fujii T, Oba MS, Kawai M, Hirono S, Kodera Y, Sho M, Akahori T, Shimizu Y, Ambo Y, Kondo N, Murakami Y, Ohuchida J, Eguchi H, Nagano H, Sakamoto J, Yamaue H.	Transition of serum cytokines following pancreaticoduodenectomy: A subsidiary study of JAPAN-PD.	Oncol Lett.	16 (5)	6847-6853	2018.11	

著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub年月日
31 Ogawa M, Namikawa T, Oki T, Iwabu J, Munekage M, Maeda H, Tamura T, Yatabe T, Kitagawa H, Dabanaka K, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K.	Gastric outlet obstruction caused by metastatic tumor of the stomach originating from primary breast cancer: A case report.	Mol Clin Oncol.	9 (5)	523-526	2018.11	2018.10.17.
32 Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Tamura T, Yatabe T, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Prognostic significance of serum alkaline phosphatase and lactate dehydrogenase levels in patients with unresectable advanced gastric cancer.	Gastric Cancer.				2018.11.11.
33 Hanazaki K, Kitagawa H, Namikawa T	What constitutes ideal perioperative glycemic control for preventing acute postoperative hyperglycemia in surgical patients with nonalcoholic fatty liver disease?	J Am Coll Surg.				2018.11
34 Tamura T, Yatabe T, Namikawa T, Hanazaki K, Yokoyama M.	Glucose control using a closed-loop device decreases inflammation after cardiovascular surgery without increasing hypoglycemia risk.	J Artif Organs.				2018.11.19.
35 Yamamoto M, Ninomiya H, Tashiro M, Sato T, Handa T, Inoue K, Orihashi K, Hanazaki K.	Evaluation of graft anastomosis using time-intensity curves and quantitative near-infrared fluorescence angiography during peripheral arterial bypass grafting.	J Artif Organs.				2018.11.22. [Epub ahead of print].
36 Maeda H, Nagata N, Nagasaka T, Oba K, Mishima H, Kato T, Yoshida K, Muro K, Sakamoto J	A multicenter single-arm Phase II clinical trial of second-line FOLFIRI plus panitumumab after first-line treatment with FOLFOX plus panitumumab for initial RAS wild-type colorectal cancer with evaluation of circulating tumor DNA: A protocol study	Oncol Lett.				2018.11.27 (on-line publication)
37 Namikawa T, Ishida N, Tsuda S, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Munekage M, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K.	Successful treatment of liver metastases arising from early gastric cancer achieved clinical complete response by nivolumab.	Surg Case Rep.	4 (1)	71	2018.12	

著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub 年月日
38 Namikawa T, Fujisawa K, Munekage E, Iwabu J, Uemura S, Tsujii S, Maeda H, Kitagawa H, Fukuhara H, Inoue K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K.	Clinical application of photodynamic medicine technology using light-emitting fluorescence imaging based on a specialized luminous source	Med Mol Morphol.	51 (4)	187-193	2018.12	
39 Kitagawa H, Ohbuchi K, Munekage M, Fujisawa K, Kawanishi Y, Namikawa T, Kushida H, Matsumoto T, Shimobori C, Nishi A, Sadakane C, Watanabe J, Yamamoto M, Hanazaki K.	Data on metabolic profiling of healthy human subjects' plasma before and after administration of the Japanese Kampo medicine maoto.	Data Brief.	22	359-364	2018.12	
40 Toyokazu Oki, Takeki Sugimoto, Maho Ogawa, Ken Dabanaka, Tsutomu Namikawa, Kazuhiro Hanazaki	Evaluation of follow-up examinations using ultrasonography for patients with thyroid nodules initially diagnosed as benign	Anticancer Res.				In Press

[日本語論文]

論文

著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub 年月日
1 花崎和弘、倉本秋	特別企画 (5) 「今こそ地域医療を考える - 都市と地方の外科医療と外科教育の格差を解消するには -」 3. 地方再生は教育から：地域外科医療の発展を目指した Academic Surgeon 育成への取り組み	日本外科学会雑誌	119 (1)	86-88	2018.01	
2 杉本健樹	乳癌領域における遺伝性腫瘍診療 -HBOC 以外の乳癌易罹患性疾患と遺伝性腫瘍診療体制の構築 -	乳癌の臨床	33 (1)	23-29	2018.02	
3 宗景匡哉、花崎和弘	膝・消化管神経内分泌腫瘍	イヤート TOPICS 2018-2019 第8版、医療情報科学研究所編、メディックメディア		B48-50	2018.03	

著者名	論文タイトル	雑誌名	巻(号)	掲載項	発行年月	Epub年月日
4 並川 努、宇都宮正人、津田 祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部 純、上村 直、金川俊哉、辻井茂宏、前田広道、北川博之、福原秀雄、岡本 健、井上啓史、小林道也、花崎和弘	胃癌に対する5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の有用性	高知県医師会医学雑誌	23(1)	186-191	2018.03	
5 藤枝悠希、大島雅之、坂本浩一、花崎和弘、藤枝幹也	大腿部蜂窩織炎で発症した後腹膜膿瘍の1小児例	高知県小児科会報	30	66-71	2018.04	
6 花崎和弘、北川博之、上村直、宗景匡哉、藤澤和音、並川努	人工膵臓	外科と代謝・栄養	52(2)	145-148	2018.04	
7 鈴木健、鈴木光幸、大城清哲、仲間司、連利博、星野絵里、大島雅之、秋山卓土、仁尾正紀、山城雄一郎	尿中硫酸抱合型胆汁酸測定による新生児胆道閉鎖症早期スクリーニング - 沖縄県におけるパイロットスタディ -	日本マスキューリング学会誌	28(1)	83-91	2018.05	
8 川西泰広、北川博之、宗景匡哉、並川努、花崎和弘	化学療法後の膵癌縮小で脱落した十二指腸ステントによる小腸穿孔の一例	日本臨床外科学会雑誌	79(5)	1095-1099	2018.05	
9 北川博之、並川努、花崎和弘	最新版“腸閉塞”を極める！保存的治療の種類と適応のポイント	臨床外科第7号別刷	第7号	790-792	2018.07	
10 花崎和弘、藤澤和音、宗景匡哉、上村直、北川博之、並川努	ERASを目指した肝胆膵外科周術期管理の工夫：人工膵臓を用いた周術期血糖管理を中心に	肝胆膵治療研究会誌	15(1)	14-20	2018.08	
11 花崎 和弘	膵臓外科学の夜明け：高知から世界へ	膵臓日本膵臓学会学会誌	33(5)	867-869	2018.10	
12 杉本健樹、小河真帆、沖 豊和、駄場中研、中島典昭、下元憲明、小松昭夫、藤原キミ、栗山元根、花崎和弘	乳癌センチネルリンパ節生検 - 電子パスでも術式変更に対応できる -	日本クリニカルパス学会誌	20(4)	573-576	2018.12	
13 耕崎拓大、宗景匡哉、上村直、花崎和弘	腹腔鏡下胆嚢摘出術後の腹腔内膿瘍に対して超音波内視鏡下ドレナージ術が奏効した1例	胆道	30(2)	891-899	2018.12	
14 坂本浩一、大島雅之	当科における重症心身障害児(者)に対する腹腔鏡下胃瘻造設術の検討	日本重症心身障害学会誌	42(3)	465-470	2018.12	

業績：学会発表（2018.1～2018.12）

国際学会

	著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
1	Sunao Uemura, Sachi Tsuda, Kazune Fujisawa, Jun Iwabu, Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, Shota Yamamoto, Yasuko Nozaki, Takuhiro Kosaki, Shinji Iwasaki, Toshiji Saibara, Kazuhiro Hanazaki	2018.05	A case of advanced hepatocellular carcinoma with gallbladder invasion after radiotherapy for Vp 3	The Asian Pacific Association for the Study of the Liver Single Topic Conference 2018 on HCC		Yokohama
2	K Sakamoto, M Obatake, Y Fujieda, K Hanazaki	2018.05	Effect of olanexidine gluconate on preoperative skin preparation in pediatric surgery: A prospective study comparing chlorhexidine gluconate	2018 Pacific Association of Pediatric Surgeons Annual Meeting		Sapporo
3	Takashi Matsumoto, Chika Shimobori, Nozomu Sakurai, Hiroyuki Kitagawa, Masaya Munekage, Kazune Fujisawa, Yasuhiro Kawanishi, Tsutomu Namikawa, Hirotaka Kushida, Akinori Nishi, Masanori Arita, Kazuhiro Hanazaki, Masahiro Yamamoto	2018.06	Comprehensive, plasma-metabolome analysis of Japanese Kanpo medicine“maoto”in healthy human subjects	14th Annual Conference of the Metabolomics Society		Seattle, Washington
4	Masayuki Obatake, Yasuaki Taura, Yusuke Yamane, Takuya Yoshida	2018.06	Results and analysis of the current situation of urinary sulfated bile acid (USBA) examination for diagnosis of biliary atresia	19th European Paediatric Surgeons' Association (EUPSA) Congress 2018		Paris

	著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
5	Kazuhiro Hanazaki, Sunao Uemura, Masaya Munekage, Kazune Fujisawa, Sachi Tsuda, Hiroyuki Kitagawa, Tutomu Namikawa	2018.07	Development of Perioperative Glycemic Control Using an Artificial Pancreas and Surgical Diabetes Treatment	The 55th Annual Meeting of the Japanese Society for Surgical Metabolism and Nutrition	International symposium	Osaka
6	Kazuhiro Hanazaki, Masaya Munekage, Jun Iwabu, Sunao Uemura, Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa	2018.08	Research on absorption, distribution, metabolism and excretion (ADME) of the traditional Japanese herbal medicine (Kampo) and its beneficial role in the enhanced recovery after surgery (ERAS)	VIII FRENCH JAPANESE INTERNATIONAL BIOETHICS CONFERENCE	keynote Address	Matsuyama
7	Hiroyuki Kitagawa, Jun Iwabu, Tsutomu Namikawa, Kazuhiro Hanazaki	2018.09	Assessment of the Blood Supply Using the Indocyanine Green Fluorescence Method and Postoperative Endoscopic Evaluation of Anastomosis during Esophagectomy	16th World Congress for the International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE 2018)		Vinnea
8	Jun Iwabu, Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, and Kazuhiro Hanazaki	2018.09	Preoperative patient-related factors associated with prognosis after esophagectomy for esophageal cancer	16th World Congress for the International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE 2018)		Vinnea
9	Taku Nakayama, Shimpei Otsuka, Kazuhiro Hanazaki, Keiji Inoue, Taro Shuin, Motowo Nakayama, Tohru Tanaka, shun-ichiro Ogura	2018.10	Dormant Cancer Cells Accumulate High Photoporphyrin IX Levels And Are Sensitive To 5-aminolevulinic Acid-based Photodynamic Therapy Pilot study to detect circulating tumor cells in human peripheral blood using 5-aminolevulinic acid	6th International ALA and Porphyrin Symposium (IAPS6)	Symposium	Fukuroi

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
10 Lisa Hirose, Hiroshi Lohara, Yoshie Miura, Yasuki Hijikata, Yasushi Soda, Shohei Mitamoto, Jiyuan Liao, Satoshi Takahashi, Masaru Shinozaki, Yasunori Ota, Eri Watanabe, Toru Tanaka, Motowo Nakajima, Sachiko Kiniwa, Ryuhei Okuyama, Hideo Fukuhara, Kenji Inoue, Tsutomu Namikawa, Kazuhiro Hanazaki, Kenzaburo Tani	2018.10	Pilot study to detect circulating tumor cells in human peripheral blood using 5-aminolevulinic acid	6th International ALA and Porphyrin Symposium (IAPS6)	Symposium	Fukuroi
11 Masayuki Obatake, Yuki Fujieda, Koichi Sakamoto, Kazuhiro Hanazaki	2018.11	A case of a gastric duplication mimicking a retroperitoneal cyst	25th Congress of the Asian Association of Pediatric Surgeons (AAPS)		Dubai
12 Takuya Yoshida, Yasuaki Taura, Takeshi Nagayasu, Masayuki Obatake	2018.11	Endoscopic Trans-Anal Endorectal Pull-Through in Hirschsprung's Disease; A Novel Procedure	25th Congress of the Asian Association of Pediatric Surgeons (AAPS)		Dubai

国内学会

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
1 岩部 純、北川博之、 津田 祥、並川 努、 花崎和弘	2018.02	腹臥位左胸腔鏡下に食道癌術後の胸部大動脈再発病変を切除した2例	第32回四国内視鏡外科研究会		高知
2 北川博之、杉本健樹、 宗景絵里、花崎和弘	2018.02	進行食道癌術後体重減少に関する因子の検討	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会		横浜
3 濱田朋弥、荒木まり子、 石原正行、藤枝幹也、 大畠雅之	2018.02	栄養管理に難渋し、胃瘻からのゼリー粥で経腸栄養を進めている11歳脳性麻痺男児例	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会		横浜
4 杉本健樹	2018.03	乳癌領域における遺伝性腫瘍診療へのニーズと診療体制構築の重要性—当院と高知県でのHBOC診療普及の経験を通して—	第15回日本乳癌学会東北地方会	特別講演	仙台

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
5 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、前田広道、北川博之、公文龍也、小林道也、花崎和弘	2018.03	Prognostic significance of serum tumor markers in patients with advanced gastric cancer 治癒切除不能進行胃癌における腫瘍マーカーの検討	第90回日本胃癌学会総会		横浜
6 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、前田広道、辻井茂宏、北川博之、公文龍也、小林道也、花崎和弘	2018.03	再発胃癌に対して化学療法中に Trousseau 症候群を発症した 1 例	第54回日本腹部救急医学会総会		東京
7 北川博之、並川努、岩部純、津田祥、上村直、藤澤和音、花崎和弘	2018.03	腹腔鏡手術を行った食道癌術後食道裂孔ヘルニアの経験	第54回日本腹部救急医学会総会		東京
8 津田祥、北川博之、宇都宮正人、藤澤和音、岩部純、金川俊哉、上村直、辻井茂宏、前田広道、岡本健、並川努、花崎和弘	2018.03	ダメージコントロール手術にて救命し得た腹腔内大量出血を伴う壊死性胆嚢炎の 1 例	第54回日本腹部救急医学会総会		東京
9 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	2018.03	初回手術後 25 年で晚期再発を来した甲状腺乳頭癌の治療中に骨髄異形性症候群を併発した 1 例	第46回中国四国甲状腺外科研究会		松江
10 杉本健樹、沖 豊和、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	2018.04	ホルモン受容体陽性・HER2 陰性乳癌の化学療法適応の決定～ 21 遺伝子検査の使用経験～	第118回日本外科学会定期学術集会		東京
11 並川 努、宇都宮正人、津田 祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部 純、上村 直、前田広道、北川博之、公文龍也、小林道也、花崎和弘	2018.04	治癒切除不能進行再発胃癌に対する Ramucirumab 併用療法の検討	第118回日本外科学会定期学術集会		東京
12 宗景匡哉、北川博之、津田晋、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、前田広道、並川努、花崎和弘	2018.04	外科周術期血糖管理における人工臓臓療法の実現と課題	第118回日本外科学会定期学術集会		東京
13 福留惟行、石沢武彰、渡邊元己、川勝章司、入江彰一、大庭篤志、佐藤崇文、水野智哉、小野嘉大、中瀬古裕一、武田良祝、三瀬祥弘、伊藤寛倫、井上陽介、高橋祐、齋浦明夫	2018.04	ICG 蛍光法による肝区域ナビゲーションを用いた腹腔鏡下解剖学的肝切除の工夫	第118回日本外科学会定期学術集会	ワークショップ	東京

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
14 藤澤和音、辻井茂宏、上村直、並川努、北川博之、宗景絵里、津田祥、宇都宮正人、花崎和弘	2018.04	当院における前立腺全摘術後の鼠経ヘルニアに関する検討	第118回日本外科学会定期学術集会		東京
15 並川 努、津田 祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部 純、上村 直、前田広道、北川博之、福原秀雄、穴山貴嗣、井上啓史、佐藤隆幸、小林道也、渡橋和政、花崎和弘	2018.04	胃癌に対する5-アミノレブリン酸を用いた光学的診断の臨床応用	日本蛍光ガイド手術研究会 第1回学術集会		東京
16 並川 努、宇都宮正人、津田 祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部 純、上村 直、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘	2018.04	胃癌皮膚転移の3例	第104回日本消化器病学会総会		東京
17 並川 努、宇都宮正人、津田 祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部 純、上村 直、沖 裕昌、前田広道、北川博之、公文龍也、上田 弘、小林道也、花崎和弘	2018.05	リンパ節転移を伴ったEpstein-Barr virus関連早期胃癌の1例	第95回日本消化器内視鏡学会総会		東京
18 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、岩部純、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘	2018.05	胃癌術後膵胆道病変に対する内視鏡的治療を考慮した再建術式	第72回手術手技研究会		徳島
19 北川博之、並川努、岩部純、津田祥、上村直、藤澤和音、花崎和弘	2018.05	食道癌胃管再建におけるICG蛍光法による血流評価と縫合不全の回避	第72回手術手技研究会		徳島
20 杉本健樹、田代真理、小河真帆、沖 豊和、駄場中研、藤原キミ、花崎和弘	2018.05	地域で完結できる遺伝性腫瘍診療体制の構築－当院のHBOCに対する取組みを通して－	第26回日本乳癌学会学術総会	厳選口演	京都
21 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	2018.05	当科における術前内分泌療法実施の背景因子と治療効果の検討	第26回日本乳癌学会学術総会		京都
22 小河真帆、杉本健樹、沖豊和、駄場中研、花崎和弘	2018.05	HER2陰性進行再発乳癌に対するペバシズマブ+パクリタキセル投与の経験－休薬の功罪に関する検討－	第26回日本乳癌学会学術総会	厳選口演	京都

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
23 上村直、北川博之、津田祥、藤澤和音、宗景匡哉、岩部純、並川努、花崎和弘	2018.05	肝切除後噴霧型癒着防止剤の使用経験	第46回日本臨床外科学会高知県支部会		高知
24 大島雅之、田浦康明、山根祐介、吉田拓哉、坂本浩一、藤枝悠希、花崎和弘	2018.05	胆道閉鎖症診断における尿中硫酸抱合型胆汁酸測定の意味と現状について	第55回日本小児外科学会学術集会		新潟
25 坂本浩一、大島雅之、藤枝悠希、花崎和弘	2018.05	小児の術前皮膚消毒におけるオラネキシジングルコン酸塩の効果ークロルヘキシジングルコン酸塩との比較検討	第55回日本小児外科学会学術集会		新潟
26 坂本浩一、大島雅之、藤枝悠希、花崎和弘	2018.05	当科における重症心身障害児(者)に対する腹腔鏡下胃瘻造設術の工夫	第55回日本小児外科学会学術集会		新潟
27 藤枝悠希、大島雅之、坂本浩一、花崎和弘	2018.05	術後に後腹膜病変が疑われた胃重複症の1例	第55回日本小児外科学会学術集会		新潟
28 田浦康明、山根祐介、吉田拓哉、鏝尾智幸、篠原彰太、小坂太一郎、高槻光寿、江口晋、稲村幸雄、徳永隆幸、大島雅之、永安武	2018.05	修練医が執刀した小児鼠径ヘルニアに対するLPEC法の関連合併症の検討	第55回日本小児外科学会学術集会		新潟
29 杉本健樹、田代真理、小河真帆、沖豊和、泉谷智明、牛若昂志、駄場中研、前田広道、小林道也、花崎和弘、執印太郎	2018.06	遺伝性乳癌診療における遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)以外の遺伝性腫瘍症候群への対応と当院の遺伝性腫瘍診療の課題	第24回日本家族性腫瘍学会学術集会		神戸
30 坂本浩一、大島雅之、藤枝悠希、菊地広朗、辻慶紀、久川浩章、花崎和弘	2018.06	白血病治療中の骨髄抑制時に発症した急性虫垂炎の1男児例	第32回日本小児救急医学会学術集会		つくば
31 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	2018.06	甲状腺癌晩期再発治療中に骨髄異形性症候群を併発し治療の選択に難渋した1例	第30回日本内分泌外科学会総会		札幌
32 小河真帆、沖豊和、駄場中研、杉本健樹、花崎和弘	2018.06	大腿部痛を契機に骨転移が判明したが原発巣を確認出来なかった甲状腺濾胞癌の1例	第30回日本内分泌外科学会総会		札幌
33 並川努、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、公文龍也、長田裕典、小林道也、花崎和弘	2018.06	食道浸潤胃癌術後肺転移に対して切除後長期生存の1例	第40回日本癌局所療法研究会		東京

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
34 上村直、津田祥、 藤澤和音、岩部純、 北川博之、並川努、 山本翔太、野崎靖子、 耕崎拓大、岩崎信二、 西原利治、花崎和弘	2018.06	Vp3 を伴い放射線治 療後に胆嚢浸潤を示 した肝細胞癌の1例	第40回日本癌局所 療法研究会		東京
35 沖 豊和、杉本健樹、 小河真帆、駄場中研、 花崎和弘	2018.06	BRCA1/2 遺伝学的検 査によって乳房温存 療法の適応を決定し た若年性乳癌の1例	第40回日本癌局所 療法研究会		東京
36 津田 祥、上村 直、 並川 努、北川博之、 岩部 純、金川俊哉、 藤澤和音、宇都宮正人、 村田紘子、吉岡玲子、 木岐 淳、耕崎拓大、 西原利治、花崎和弘	2018.06	十二指腸乳頭部 adenomyomatous hyperplasia の1例	第109回日本消化 器病学会四国支部会		松山
37 石田信子、岩部純、 北川博之、金川俊哉、 並川努、花崎和弘	2018.06	多発血管炎性肉芽腫 症に合併したS状結 腸穿孔の一例	第109回日本消化 器病学会四国支部会		愛媛
38 並川 努、津田 祥、 藤澤和音、宗景絵里、 岩部 純、上村 直、 辻井茂宏、前田広道、 北川博之、小林道也、 花崎和弘	2018.06	食道胃接合部癌術後 肺転移に対して切除 後7年無再発生存の 1例	第72回日本食道学 会学術集会		宇都宮
39 北川博之、並川努、 岩部純、津田祥、 上村直、藤澤和音、 花崎和弘	2018.06	ICG 蛍光法を用いた super-drainage 付加 胃管再建	第72回日本食道学 会学術集会		栃木
40 岩部 純、北川博之、 津田 祥、並川 努、 花崎和弘	2018.06	食道癌・舌癌・下咽頭 癌の重複癌に対する集 学的治療を行った一例	第72回日本食道学 会学術集会		宇都宮
41 福留惟行、渡邊雅之、 峯真 司、今村 裕、 岡村明彦、山下公太郎、 速水 克、湯田匡美	2018.06	通過障害を伴う進行食 道癌に対する経管栄養 下の術前治療の安全性 と有効性の検討	第72回日本食道学 会学術集会	要望演題	宇都宮
42 耕崎拓大、吉岡玲子、 木岐純、坪井麻記子、 谷内恵介、西原利治、 藤澤和音、上村 直、 花崎和弘	2018.06	膵癌の悪性輸入脚症 候群に対し超音波内 視鏡下胃輸入脚瘻孔 形成術が有効であつ た1例	第49回日本膵臓学 会大会		和歌山
43 並川 努、津田 祥、 藤澤和音、岩部 純、 上村 直、前田広道、 北川博之、宗景絵里、 小林道也、花崎和弘	2018.07	治癒切除不能進行再発 胃癌に対する分子標的 治療薬の治療成績	第73回日本消化器 外科学会総会	要望演題	鹿児島

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
44 北川博之、並川努、 岩部純、津田祥、 上村直、藤澤和音、 花崎和弘	2018.07	胸腔鏡下食道切除術 後痛管理におけるア セトアミノフェン定 時投与の有用性	第73回日本消化器 外科学会総会		鹿児島
45 上村直、津田祥、 藤澤和音、岩部純、 北川博之、並川努、 花崎和弘	2018.07	肝胆膵領域における マイクロ波デバイス Acrosurg.の使用経験	第73回日本消化器 外科学会総会		鹿児島
46 志賀舞、川西泰広、 藤枝悠希、宗景絵里、 前田広道、徳丸哲平、 秋森豊一、上岡教人、 小林道也、花崎和弘	2018.07	消化器外科領域にお ける男女共同参画に ついて	第73回日本消化器 外科学会総会	ワーク ショップ	鹿児島
47 宗景匡哉、宗景絵里、 花崎和弘	2018.07	消化器外科夫婦の不 承不随	第73回日本消化器 外科学会総会	企業共催 セミナー	鹿児島
48 岩部純、北川博之、 津田祥、並川努、 花崎和弘	2018.07	腹臥位左胸腔鏡下に 食道癌術後の胸部大 動脈再発病変を切除 した2例	第73回日本消化器 外科学会総会		鹿児島
49 福留惟行、渡邊雅之、 峯真司、今村裕、 岡村明彦、山下公太郎、 速水克、湯田匡美	2018.07	通過障害を伴う進行食 道癌に対する経管栄養 下の術前治療の安全性 と有効性の検討	第73回日本消化器 外科学会総会	要望演題	鹿児島
50 石田信子、津田祥、 藤澤和音、宗景絵里、 小河真帆、辻井茂宏、 北川博之、杉本健樹、 並川努、花崎和弘	2018.07	私の描く未来 -1/2828と1/8630-	第73回日本消化器 外科学会総会	ワーク ショップ	鹿児島
51 並川努、宇都宮正人、 津田祥、藤澤和音、 宗景絵里、岩部純、 上村直、前田広道、 辻井茂宏、北川博之、 小林道也、花崎和弘	2018.07	栄養評価指数からみ た胃癌化学療法にお ける予後予測因子の 検討	日本外科代謝栄養学会 第55回学術集会	要望演題	大阪
52 北川博之、岩部純、 並川努、上村直、 宗景匡哉、藤澤和音、 津田祥、横田啓一郎、 石田信子、花崎和弘	2018.07	食道癌術後縫合不全 と体重推移の検討	日本外科代謝栄養学会 第55回学術集会		大阪
53 宗景匡哉、塚田暁、 津田晋、津田昇一、 田部大樹、谷口梨奈、 齊藤大蔵、内山里美、 宗景絵里、上村直、 辻井茂宏、坪井香保里、 北川博之、並川努、 花崎和弘	2018.07	術後胃排泄遅延予防を 目的とした膵頭十二指 腸切除術の再建におけ る胃空腸端側手縫い吻 合の有効性	日本外科代謝栄養学会 第55回学術集会	ワーク ショップ	大阪

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
54 花崎和弘	2018.07	人工膵島 (Artificial pancreas) : 血糖管理の現状と将来展望	第 34 回人工臓器学会、教育セミナー	教育セミナー	東京
55 並川 努、石田信子、津田 祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部 純、上村 直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、福原秀雄、井上啓史、小林道也、花崎和弘	2018.07	特殊光源を活用した光線医療技術の臨床応用：5-アミノレブリン酸を用いた胃癌に対する光力学診断の有用性	第 31 回日本レーザー医学会関西地方会	シンポジウム	高知
56 大淵勝也、櫻井 望、松本隆志、下堀知香、串田浩孝、西 明紀、山本雅浩、有田正規、花崎和弘	2018.09	血漿メタボロミクスによる漢方薬への反応評価	日本生薬学会第 56 回年会		京都
57 北川博之、岩部 純、並川 努、上村 直、宗景匡哉、藤澤和音、津田 祥、横田啓一郎、石田信子、花崎和弘	2018.09	食道癌術後体重変化と空腸瘻起因性腸捻転の検討	第 10 回日本静脈経腸栄養学会四国支部会学術集会		徳島
58 北川博之、岩部 純、並川 努、上村 直、宗景匡哉、藤澤和音、津田 祥、横田啓一郎、石田信子、花崎和弘	2018.09	胸腔鏡下食道癌術後短期成績と手術時期の検討	第 93 回中国四国外科学会総会・第 23 回中国四国内視鏡外科研究会		広島
59 杉本健樹、小河真帆、沖 豊和、藤原キミ、駄場中研、花崎和弘	2018.09	Trastuzumab emtansine (T-DM1) 休薬後も完全緩解 (cCR) が長期に継続している HER2 陽性再発乳癌の 3 例	第 15 回日本乳癌学会中国四国地方会		高松
60 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘	2018.09	原発巣が HER2 陽性であったにも関わらず抗 HER2 療法が奏功せず治療に難渋した再発乳癌の 1 例	第 15 回日本乳癌学会中国四国地方会		高松
61 大畠雅之、星野絵里、藤枝幹也、前田長正	2018.09	便色判定プログラムを利用した胆道閉鎖症早期発見のためのフィールド実証研究	第 94 回日本小児科学会高知地方会		高知
62 並川 努	2018.09	光を用いた新規診断技術の臨床応用：5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断および ICG 蛍光法の有用性	第 27 回消化器疾患病態治療研究会	学術セミナー	高知
63 北川博之、岩部 純、並川 努、上村 直、宗景匡哉、藤澤和音、津田 祥、横田啓一郎、石田信子、花崎和弘	2018.09	食道癌術後体重変化と空腸瘻起因性腸捻転の検討	第 27 回消化器疾患病態治療研究会		高知

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
64 上村 直、石田信子、 横田啓一郎、津田 祥、 藤澤和音、宗景匡哉、 岩部 純、北川博之、 並川 務、前田広道、 小林道也、山本翔太、 木岐淳史、耕崎拓大、 花崎和弘	2018.09	胆 嚢 intracystic papillary neoplasm (ICPN) の1例	第27回消化器疾患 病態治療研究会		高知
65 小河真帆、沖 豊和、 駄場中研、杉本健樹、 花崎和弘	2018.09	乳癌再発治療中にイ レウスを来たし胃転 移が判明した1例	第27回消化器疾患 病態治療研究会		高知
66 金川俊哉、前田広道、 岡本 健、福留惟行、 山西伴明、小林道也、 花崎和弘	2018.09	術後膿瘍を形成した キャスルマン症候 群の1例	第27回消化器疾患 病態治療研究会		高知
67 津田 祥、上村 直、 並川 努、北川博之、 岩部 純、金川俊哉、 藤澤和音、宇都宮正人、 村田紘子、吉岡玲子、 木岐 淳、耕崎拓大、 西原利治、花崎和弘	2018.09	十二指腸乳頭部 adenomyomatous hyperplasia の1例	第27回消化器疾患 病態治療研究会		高知
68 横田啓一郎、並川 努、 石田信子、津田 祥、 藤澤和音、宗景絵里、 福留惟行、岩部 純、 宗景匡哉、金川俊哉、 上村 直、辻井茂宏、 前田広道、北川博之、 岡本 健、小林道也、 花崎和弘	2018.09	食道胃接合部癌術後 肺転移に対して切除 後8年無再発生存の 1例	第27回消化器疾患 病態治療研究会		高知
69 石田信子、並川 努、 津田 祥、横田啓一郎、 藤澤和音、宗景絵里、 福留惟行、岩部 純、 宗景匡哉、金川俊哉、 上村 直、辻井茂宏、 前田広道、北川博之、 岡本 健、小林道也、 花崎和弘	2018.09	早期胃癌術後肝転移 に対してNivolumab が著効した一例	第27回消化器疾患 病態治療研究会		高知
70 宗景匡哉、北川博之、 川西泰広、津田晋、 津田祥、藤澤和音、 宗景絵里、上村直、 前田広道、耕崎拓大、 並川努、花崎和弘	2018.09	胆嚢炎に対する腹腔 鏡下胆嚢摘出術にお ける術中胆汁漏出を 再考する	第54回日本胆道学 会学術集会		千葉
71 上村直、津田祥、 藤澤和音、宗景匡哉、 竹内一八、花崎和弘	2018.10	同時生肝転移を伴う膵 頭部癌に対して5年 間の化学療法後に根治 術を施行し得た1例	第7回四国肝胆膵外 科フォーラム		高知

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
72 田浦康明、山根祐介、 吉田拓哉、小坂太一郎、 高槻光寿、江口 晋、 大島雅之、永安 武	2018.10	気管切開術後の離脱 時期と、気管切開維 持症例に対する気管 切開の管理法	第 29 回日本小児呼 吸器外科研究会		東京
73 小林道也	2018.10	内視鏡外科手術～ Stage IV進行癌にで きること～	第 56 回日本癌治療 学会学術集会	教育 セミナー	横浜
74 杉本健樹、田代真理、 牛若昂志、安藝史典、 高島大典、泉谷知明、 久保 亨、執印太郎	2018.10	どうする？PARP1 阻 害剤のコンパニオン 診断－当院で治療中 の進行再発乳癌での シミュレーション－	日本人類遺伝学会第 63 回大会		神奈川
75 並川 努、石田信子、 津田 祥、宗景絵里、 岩部 純、上村 直、 宗景匡哉、前田広道、 北川博之、岡本 健、 小林道也、花崎和弘	2018.10	S-1 投与により病理 学的完全奏効が得ら れた胃癌の 1 例	第 56 回日本癌治療 学会学術集会		横浜
76 並川 努、石田信子、 津田 祥、宗景絵里、 岩部 純、上村 直、 宗景匡哉、前田広道、 北川博之、岡本 健、 小林道也、花崎和弘	2018.11	治癒切除不能進行 再発胃癌に対する Nivolumab 療法の検討	第 16 回日本消化器 外科学会大会		神戸
77 北川博之、並川 努、 岩部 純、上村 直、 津田 祥、小林道也、 花崎和弘	2018.11	食道癌手術における ICG 蛍光法を用いた 胃管血流速度測定と 術後早期吻合部内視 鏡の有用性	JDDW2018		神戸
78 宗景匡哉、坪井香保里、 津田 晋、津田昇一、 宗景絵里、北川博之、 塚田 暁、並川 努、 花崎和弘	2018.11	超高齢者に対する積極 的外科治療により長期 生存中の消化管穿孔を 伴う小腸原発性悪性リ ンパ腫の 1 例	JDDW2018		神戸
79 花崎和弘、藤澤和音、 宗景匡哉、上村 直、 北川博之、並川努	2018.11	人工臓器療法の改良・ 改善：人工臓器は第 3 の人工臓器になり 得たか？	第 56 回日本人工臓 器学会大会	基調講演	東京
80 宗景匡哉、北川博之、 山本奈緒、吉田美沙樹、 井本琢大、村上 武、 壬生希代、浅野拓司、 木下良彦、矢田部智昭、 藤澤和音、宗景絵里、 並川 努、花崎和弘	2018.11	人工臓器療法中の治 療中断対策	第 56 回日本人工臓 器学会大会	大会賞審 査講演	東京
81 並川 努、石田信子、 藤澤和音、岩部 純、 宗景匡哉、上村 直、 前田広道、北川博之、 小林道也、花崎和弘	2018.11	S-1 単剤で病理学的 完全奏効が得られた 胃癌の 1 例	第 48 回胃外科・術 後障害研究会		金沢

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
82 花崎和弘	2018.11	医療機器の臨床研究： 人工臓器の臨床応用	第80回日本臨床外 科学会総会	第21回 臨床研究 セミナー	東京
83 杉本健樹、小河真帆、 沖 豊和、駄場中研、 花崎和弘	2018.11	遺伝性乳がん卵巣が ん(HBOC)から始まっ た当院の遺伝性腫瘍 診療の現状と今後の 課題 –コンパニオン 診断、多遺伝子パ ネル、がんゲノム医 療の時代に備えて–	第80回日本臨床外 科学会総会	ワーク ショップ	東京
84 並川 努、石田信子、 津田 祥、藤澤和音、 福留惟行、宗景絵里、 岩部 純、宗景匡哉、 上村 直、前田広道、 辻井茂広、北川博之、 岡本 健、小林道也、 花崎和弘	2018.11	再発胃癌に対する薬 物療法における炎症 反応と栄養状態が予 後に及ぼす影響	第80回日本臨床外 科学会総会	ワーク ショップ	東京
85 駄場中研、福留行、 石田信子、横田敬一郎、 上村 直、並川 努、 花崎和弘	2018.11	胃粘膜壊死により門 脈ガス血症と同時に 縦隔・皮下気種を生 じた1例	第80回日本臨床外 科学会総会		東京
86 北川博之、岩部 純、 並川 努、上村 直、 宗景匡哉、藤澤和音、 津田 祥、横田啓一郎、 石田信子、花崎和弘	2018.11	ICG 蛍光法による血 流評価を用いた安全 な胃管再建	第80回日本臨床外 科学会総会		東京
87 上村 直、藤澤和音、 石田信子、横田啓一郎、 津田 祥、岩部 純、 辻井茂宏、北川博之、 並川 努、花崎和弘	2018.11	右肝円索に伴う左側 胆嚢に対し腹腔鏡下 胆嚢摘出術を施行し た1例	第80回日本臨床外 科学会総会		東京
88 志賀舞、宗景絵里、 津田祥、藤澤和音、 小河真帆、宗景匡哉、 花崎和弘、松浦喜美夫	2018.11	女性にも男性にも患 者にも優しいユニ バーサルデザイン外 科を構築しよう	第80回日本臨床外 科学会総会	総会 特別企画	東京
89 宗景匡哉、宗景絵里、 津田 祥、藤澤和音、 上村 直、前田広道、 北川博之、並川 努、 花崎和弘	2018.11	80歳以上の高齢者に 対する膈頭十二指腸 切除術の治療成績	第80回日本臨床外科 学会総会		東京
90 岩部 純、北川博之、 石田信子、横田啓一郎、 並川 努、花崎和弘	2018.11	胸部中部食道癌に合 併した大動脈食道瘻 を大動脈ステント内 挿術で救命した1例	第80回日本臨床外科 学会総会		東京

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
91 沖 豊和、杉本健樹、 小河真帆、駄場中研、 花崎和弘	2018.11	原発巣、局所再発巣 がHER2陽性だったが肝転移に抗HER2 療法が奏功せず HER2陰性を確認し た再発乳癌の1例	第80回日本臨床外科 学会総会		東京
92 津田 祥、岡本 健、 並川 努、北川博之、 辻井茂宏、上村 直、 宗景匡哉、岩部 純、 金川俊哉、福留惟行、 藤澤和音、横田啓一郎、 石田信子、花崎和弘	2018.11	BMI54患者の絞扼性 腸閉塞に対し腹腔鏡 下に絞扼解除術を施 行した1例	第80回日本臨床外科 学会総会		東京
93 小河真帆、沖 豊和、 駄場中研、杉本健樹、 花崎和弘	2018.11	乳癌術後に腹水貯留を 来たし遺伝性腫瘍を想 起することで診断に 至った卵巣癌の2例	第80回日本臨床外科 学会総会		東京
94 横田啓一郎、北川博之、 石田信子、津田 祥、 岩部 純、宗景匡哉、 上村 直、並川 努、 花崎和弘	2018.11	食道癌術後に発見さ れた無症候性肺動脈 血栓の1例	第80回日本臨床外科 学会総会		東京
95 石田信子、並川 努、 津田 祥、横田啓一郎、 岩部 純、北川博之、 花崎和弘	2018.11	GISTと早期胃癌を合 併した一例	第80回日本臨床外 科学会総会		東京
96 花崎和弘	2018.11	漢方のエビデンスを 求めて：薬物動態試 験（ADME）の意義	第28回漢方外科 フォーラム学術集会	シンポ ジウム	東京
97 花崎和弘、藤澤和音、 宗景匡哉、上村 直、 北川博之、並川 努	2018.11	外科感染症と血糖コ ントロール	第31回日本外科感 染症学会総会	外科 感染症 入門講座	大阪
98 並川 努、石田信子、 横田啓一郎、津田 祥、 藤澤和音、宗景絵里、 岩部 純、上村 直、 宗景匡哉、辻井茂宏、 前田広道、北川博之、 岡本 健、小林道也、 花崎和弘	2018.11	周術期感染症制御を 目指したベッドサイ ド型人工膵臓による 血糖管理	第31回日本外科感 染症学会総会学術集会		大阪
99 津田 祥、北川博之、 石田信子、横田啓一郎、 藤澤和音、福留惟行、 岩部 純、金川俊哉、 宗景匡哉、上村 直、 辻井茂宏、前田広道、 並川 努、花崎和弘	2018.11	膵頭十二指腸切除後 リンパ節再発と鑑別 困難であった縫合糸 膿瘍の1例	第110回日本消化器 病学会四国支部例会	研修医 奨励賞	松山

著者	年月	演題名	学会名	プログラム名	開催地
100 並川 努、石田信子、 津田 祥、横田啓一郎、 藤澤和音、宗景絵里、 岩部 純、上村 直、 宗景匡哉、前田広道、 北川博之、岡本 健、 小林道也、花崎和弘	2018.12	腸音モニタリングシステムを用いた腸蠕動音数変化の探索的検討	第31回日本内視鏡外科学会総会		福岡
101 北川博之、岩部 純、 並川 努、上村 直、 宗景匡哉、藤澤和音、 津田 祥、横田啓一郎、 石田信子、花崎和弘	2018.12	腹臥位胸腔鏡下食道切除術における左上縦隔郭清、胸部郭清先行と頸部郭清先行の違い	第31回日本内視鏡外科学会総会		福岡
102 杉本健樹	2018.12	転移性乳癌に対するPARP1阻害剤のコンパニオン診断としてのBRCA1/2検査	第4回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会	特別企画	東京

業績：Grant (2018.1～2018.12)

科学研究費

日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[研究代表者] 並川 努

[研究課題名] 胃癌の内視鏡的粘膜切除における 5-ALA を用いた革新的光力学的診断の開発応用

[研究期間] 2017年～2019年度

日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[研究代表者] 花崎 和弘

[研究課題名] 人工膵臓は外科的糖尿病の糖毒性を解消できるか？

[研究期間] 2018年～2020年度

日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

[研究代表者] 大畠 雅之

[研究課題名] 便色判別プログラムを利用した胆道閉鎖症早期発見のためのフィールド実証研究

[研究期間] 2018年～2022年度

受託研究費

臨床研究・治験推進研究事業 公益社団法人 日本医師会

[研究代表者] 並川 努

[研究課題名] 治験の実施に関する研究【5ALA】(進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時における SPP-005 を用いた光線力学診断の有用性及び安全性を検討する多施設共同試験(検証試験))

[研究期間] 2017年8月28日～2019年(2020.3.31)

臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業

[研究分担者] 花崎 和弘

[研究課題名] 外科手術症例登録データならびに医療費データの連携に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究

[研究期間] 2016年10月17日～2018年(2019.3.31)

医療分野研究成果展開事業 産学連携医療イノベーション創出プログラム 基本スキーム【ACT-M】

[研究分担者] 花崎 和弘

[研究課題名] 脂質代謝を標的とした新規癌治療法の開発

[研究期間] 2018年9月18日～2020年(2021.3.31)

臨床研究・治験基盤事業 革新的医療技術創出拠点プロジェクト 橋渡し研究戦略的推進プログラム シーズ B

[研究分担者] 花崎 和弘

[研究課題名] 膵臓癌を標的とした抗体薬物複合体による革新的治療法の創出を目指した研究

[研究期間] 2018年9月25日～2018年(2019.3.31)

難治性疾患実用化研究事業

[研究分担者] 大島 雅之

[研究課題名] 「胆道閉鎖症の早期診断に関する研究」における尿中硫酸抱合型胆汁酸に関する研究

[研究期間] 2017年4月27日～2019年(2020.3.31)

共同研究費

日機装株式会社

[研究代表者] 花崎 和弘

[研究課題名] 正常ラット及びSTZラットを用いた血糖変動モデルの作成

[研究期間] 2017年～2018年度

株式会社ツムラ

[研究代表者] 花崎 和弘

[研究課題名] 薬物動態-メタボローム統合解析による麻黄湯(TJ-27)の有用性・安全性についての研究

[研究期間] 2016年～2018年(2019.3.31)

旭化成メディカル株式会社

[研究代表者] 並川 努

[研究課題名] 調音を用いた臨床データ解析

[研究期間] 2018年6月1日～2019年(2020.3.31)

補助金

一般社団法人 高知医療再生機構

[補助事業者] 花崎 和弘

[補助事業名] 平成30年度専門医養成支援事業

[事業期間] 2018年度

一般社団法人 高知医療再生機構

[補助事業者] 北川 博之

[補助事業名] 平成30年指導医資格取得支援事業

[事業期間] 2018年度

助成金

一般社団法人 高銀地域経済復興振興財団

[研究代表者] 並川 努

[研究課題名] 光感受性物質前体 5-アミノレブリン酸による光力学診断を用いた消化器悪性腫瘍の検出

[研究期間] 2014年度～

研究費 高知大学医学部附属病院

平成29年度高知大学医学部附属病院研究者表彰

[対象者] 北川 博之

[事業名] 平成29年度高知大学医学部附属病院研究者表彰

[受賞区分] 優秀研究者賞(原著論文部門)

[研究費授与] 2018年4月

会員名簿

[正会員]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
秋森 豊一	〒 788-0785 高知県立幡多けんみん病院 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 TEL : 0880-66-2222 FAX : 0880-66-2111	高知医科	昭和 63 年
荒木京二郎	〒 780-8010 高知市棧橋通 6-9-5-1006 号	三重県立	昭和 41 年
安藤 徹	〒 780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 緩和ケア科部長・外科 高知県高知市大膳町 37 TEL : 088-822-7211 FAX : 088-825-0909	高知医科	平成 3 年
飯田 千子	〒 783-0005 医療法人藤原会 藤原病院 高知県南国市大樋乙 995 TEL : 088-863-1212 FAX : 088-863-5585	愛知医科	平成 13 年
石田 信子	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知	平成 28 年
井関 恒	〒 780-8040 JCHO 高知西病院 外科 高知県高知市神田 317-12 TEL : 088-843-1501 FAX : 088-840-1096	岩手医科	昭和 50 年
市川 賢吾	〒 501-1194 岐阜大学大学院・腫瘍制御学講座・腫瘍外科学分野 岐阜市柳戸 1-1 TEL : 0585-21-1111 FAX : 0585-21-1112	高知医科	平成 15 年
伊与木増喜	〒 781-1105 医療法人いよき会 伊与木クリニック 高知県土佐市蓮池 1227-5 TEL : 088-828-5222 FAX : 088-828-5223	高知医科	昭和 60 年
岩部 純	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知	平成 19 年
上村 直	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知	平成 18 年
氏原 孝司	〒 780-0000 医療法人厚愛会 高知城東病院 高知市大津乙 719	山口	昭和 63 年
白井 隆	〒 781-6410 医療法人白井会 田野病院 高知県安芸郡田野町 1414-1 TEL : 0887-38-7111 FAX : 0887-38-5568	岡山	昭和 47 年
宇都宮正人	〒 780-8562 高知赤十字病院 外科 高知県高知市新本町 2-13-51 TEL : 088-822-1201 FAX : 088-822-1056	高知	平成 27 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
大木 章	〒780-0844 医療法人博信会 中ノ橋病院 外科 高知県高知市永国寺町 1-46 TEL : 088-872-4069 FAX : 088-872-4077	愛知医科	平成 8 年
大畠 雅之	〒783-8505 高知大学医学部附属病院外科 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	長崎	昭和 61 年
宗景 絵里	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	神戸	平成 21 年
大海研二郎	〒780-0051 医療法人新松田会 愛宕病院 外科 高知県高知市愛宕町 1 丁目 4 番 13 号 TEL : 088-823-3301 FAX : 088-871-0531	高知医科	平成 4 年
尾形 雅彦	〒781-5103 医療法人厚愛会 高知城東病院 外科 高知県高知市大津乙 719 TEL : 088-866-2326 FAX : 088-866-5365	高知医科	昭和 61 年
岡林 雄大	〒781-8555 高知医療センター 外科 高知県高知市池 2125-1 TEL : 088-837-3000 FAX : 088-837-6766	香川医科	平成 9 年
岡本 健	〒783-8505 高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2760 FAX : 088-880-2702	高知医科	平成 4 年
小河 真帆	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 (乳腺センター) 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2139 FAX : 088-880-2140	高知	平成 19 年
沖 豊和	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 (乳腺センター) 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2139 FAX : 088-880-2140	高知	平成 19 年
尾崎 信三	〒780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 外科 高知県高知市大膳町 37 TEL : 088-822-7211 FAX : 088-825-0909	高知医科	平成 7 年
柏井 英助	〒781-1101 医療法人広正会 井上病院 高知県土佐市高岡町甲 2044 TEL : 088-852-2131 FAX : 088-852-2133	佐賀医科	平成元年
金川 俊哉	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2139 FAX : 088-880-2371	徳島	平成 15 年
金子 昭	〒780-0824 医療法人高田会 高知記念病院 外科 高知県高知市城見町 4-13 TEL : 088-883-4377 FAX : 088-882-6261	山口	昭和 56 年
上岡 教人	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 TEL : 0880-66-2222 FAX : 0880-66-2111	信州	昭和 58 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
川西 泰広	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 外科 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 TEL：0880-66-2222 FAX：0880-66-2111	高知	平成 26 年
川村 達夫	〒780-8050 医療法人成仁会 快聖クリニック 高知県高知市鴨部 1085-1 TEL：088-850-0038 FAX：088-850-0120	日本	昭和 46 年
北川 尚史	〒780-0824 医療法人高田会 高知記念病院 外科 高知県高知市城見町 4-13 TEL：088-883-4377 FAX：088-882-6261	防衛医科	昭和 55 年
北川 博之	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL：088-880-2370 FAX：088-880-2371	高知医科	平成 15 年
公文 正光	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL：0887-55-1101 FAX：0887-55-0177	群馬	昭和 50
久禮三子雄	〒596-0004 医療法人くれクリニック 大阪府岸和田市荒木町 1-8-8 TEL：072-444-9014 FAX：072-444-9082	高知医科	昭和 59 年
計田 一法	〒787-0331 医療法人聖真会 渭南病院 外科 高知県土佐清水市越前町 6-1 TEL：0880-82-1151 FAX：0880-82-0429	高知医科	昭和 60 年
小高 雅人	〒655-0031 医療法人薫風会 佐野病院 消化器がんセンター 兵庫県神戸市垂水区清水が丘 2 丁目 5 番 1 号 TEL：078-785-1000	高知医科	平成 9 年
小林 昭広	〒270-2251 社会医療法人木下会 千葉西総合病院 千葉県松戸市金ヶ作 107-1 TEL：047-384-8111 FAX：047-384-9403	高知医科	平成 5 年
小林 道也	〒783-8505 高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL：088-880-2202 FAX：088-880-2702	高知医科	昭和 59 年
近藤 雄二	〒780-0833 医療法人生生会 下村病院 高知県高知市南はりまや町 1-7-15 TEL：088-882-7161 FAX：088-882-3634	高知医科	昭和 60 年
齋藤 卓	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 外科 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL：0887-55-1101 FAX：0887-55-0177	高知医科	平成 12 年
坂本 浩一	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL：088-880-2370 FAX：088-880-2371	鹿児島	平成 8 年
志賀 舞	〒781-2193 いの町立国民健康保険仁淀病院 高知県吾川郡いの町 1369 TEL：088-893-1551 FAX：088-893-4892	高知	平成 18 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
西家佐吉子	〒780-0066 医療法人仁栄会 島津病院 外科 高知県高知市比島町4丁目6番22号 TEL:088-823-2285 FAX:088-824-2363	川崎医科	平成14年
白石 哲夫	〒781-6410 医療法人白井会 田野病院 外科 高知県安芸郡田野町1414-1 TEL:0887-38-7111 FAX:0887-38-5568	高知医科	昭和62年
杉藤 正典	〒277-0803 医療法人社団葵会 千葉・柏たなか病院 消化器外科 千葉県柏市小青田1丁目3番地2 TEL:04-7131-4131 FAX:04-7133-3154	高知医科	昭和60年
杉本 健樹	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1(乳腺センター) 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2139 FAX:088-880-2140	高知医科	昭和60年
高田 早苗	〒780-0824 医療法人高田会 高知記念病院 外科 高知県高知市城見町4-13 TEL:088-883-4377 FAX:088-882-6261	関西医科	昭和47年
高野 篤	〒780-0806 特定医療法人久会 罔南病院 外科 高知県高知市知寄町1丁目5-15 TEL:088-882-3126 FAX:088-882-3128	高知医科	昭和62年
田島 幸一	〒781-8135 医療法人社団晴緑会 高知総合リハビリテーション病院 高知県高知市一宮南町1丁目10-15 TEL:088-845-1641 FAX:088-846-2811	徳島	昭和48年
谷岡 信寿	〒781-8555 高知医療センター 消化器外科・一般外科 高知県高知市池2125-1 TEL:088-837-3000 FAX:088-837-6766	高知	平成26年
谷口 寛	〒720-0802 医療法人社団健生会 いそだ病院 外科 広島県福山市松浜町1丁目13-38 TEL:084-922-3346 FAX:084-923-0531	高知医科	平成5年
駄場中 研	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	高知医科	平成5年
田村 耕平	〒785-0036 医療法人五月会 須崎くろしお病院 外科 高知県須崎市緑町4番30号 TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582	島根医科	平成12年
田村 精平	〒785-0036 医療法人五月会 須崎くろしお病院 高知県須崎市緑町4番30号 TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582	岡山	昭和47年
辻 豪	〒789-1301 医療法人健美会 なかとさ病院 高知県高岡郡中土佐町久礼6614 TEL:0889-52-2040 FAX:0889-52-3680	川崎医科	昭和55年
辻井 茂宏	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2370 FAX:088-880-2371	徳島	平成16年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
津田 祥	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知	平成 26 年
津田 晋	〒 780-8522 社会医療法人近森会 近森病院 外科 高知県高知市大川筋 1 丁目 1-16 TEL : 088-822-5231 FAX : 088-871-7429	高知	平成 26 年
都築 英雄	〒 783-8509 JA 高知病院 外科 高知県南国市明見字中野 526-1 TEL : 088-863-2181 FAX : 088-863-2186	徳島	昭和 62 年
直木 一朗	〒 784-0027 高知県立あき総合病院 外科 高知県安芸市宝永町 1-32 TEL : 0887-34-3111 FAX : 0887-34-2687	高知医科	平成 3 年
中谷 肇	〒 786-0002 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 高知県高岡郡四万十町見付 902-1 TEL : 0880-22-1111 FAX : 0880-22-1166	高知医科	平成 10 年
中野 琢巳	〒 362-0001 北上尾クリニック 埼玉県上尾市上 144 番地 2 TEL : 048-779-2111	高知医科	昭和 62 年
永野 克二	〒 880-0853 慈英病院 宮崎県宮崎市中西町 160 番地	高知医科	平成 8 年
中村 生也	〒 787-0010 さくらクリニック 高知県四万十市古津賀 1463 TEL : 0880-35-2555 FAX : 0880-35-2572	高知医科	昭和 63 年
並川 努	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知医科	平成 3 年
橋詰 直樹	〒 830-0011 久留米大学医学部外科学講座 小児外科部門 福岡県久留米市旭町 67 TEL : 0942-31-7631 FAX : 0942-31-7705	高知	平成 19 年
橋本 祥恪	〒 781-1101 医療法人桔梗ヶ丘会 橋本外科胃腸科内科 高知県土佐市高岡町甲 750-1 TEL : 088-852-5522 FAX : 088-852-5305	日本	昭和 59 年
花崎 和弘	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	新潟	昭和 59 年
濱里 真二	〒 782-0035 医療法人同仁会 同仁病院 高知県香美市土佐山田町百石町 2-5-20 TEL : 0887-53-3155 FAX : 0887-53-3096	長崎	昭和 57 年
浜田 伸一	〒 786-0002 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 高知県高岡郡四万十町見付 902-1 TEL : 0880-22-1111 FAX : 0880-22-1166	高知医科	昭和 61 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
曳田 知紀		宮崎医科	昭和 55 年
福留 惟行	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知	平成 20 年
藤枝 悠希	〒 788-0785 高知県立幡多けんみん病院 外科 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 TEL : 0880-66-2222 FAX : 0880-66-2111	高知	平成 26 年
藤澤 和音	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2370 FAX : 088-880-2371	高知	平成 25 年
船越 拓	〒 781-0011 医療法人防治会 いずみの病院 外科 高知県高知市薊野北町 2 丁目 10 番 53 号 TEL : 088-826-5511 FAX : 088-826-5510	高知	平成 18 年
古屋 泰雄	〒 711-0906 松田外科胃腸科医院 岡山県倉敷市児島下の町 9-11-30 TEL : 086-472-7383	高知医科	昭和 62 年
別府 敬		高知医科	昭和 63 年
甫喜本憲弘	〒 780-8562 高知赤十字病院 第二外科 高知県高知市新本町 2-13-51 TEL : 088-822-1201 FAX : 088-822-1056	高知医科	平成 11 年
前田 広道	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2760 FAX : 088-880-2702	高知医科	平成 16 年
松浦喜美夫	〒 781-2193 いの町立国民健康保険仁淀病院 高知県吾川郡いの町 1369 TEL : 088-893-1551 FAX : 088-893-4892	弘前	昭和 49 年
松森 保道	〒 781-1101 土佐市立土佐市民病院 高知県土佐市高岡町甲 1867 TEL : 088-852-2151 FAX : 088-852-3549	徳島	平成 2 年
水嶋 秀	〒 603-8002 医療法人浜田会 洛北病院 内科 京都府京都市北区上賀茂神山 6	高知医科	平成 5 年
溝淵 敏水	〒 787-0331 医療法人聖真会 渭南病院 高知県土佐清水市越前町 6-1 TEL : 0880-82-1151 FAX : 0880-82-0429	東京慈恵医科	平成 6 年
宗景 匡哉	〒 783-8505 高知大学医学部外科学講座外科 1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL : 088-880-2760 FAX : 088-880-2702	高知	平成 19 年
森 一水	〒 781-1101 土佐市立土佐市民病院 高知県土佐市高岡町甲 1867 TEL : 088-852-2151 FAX : 088-852-3549	徳島	昭和 48 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
森田 雅夫	〒785-8501 医療法人五月会 須崎くろしお病院 外科 高知県須崎市緑町4番30号 TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582	高知医科	昭和62年
安原 清司	〒780-0901 医療法人三和会 国吉病院 消化器外科 高知県高知市上町1-3-4 TEL:088-875-0231	山口	平成2年
山崎 奨	〒781-1301 医療法人山秀会 山崎外科整形外科病院 高知県高岡郡越知町越知甲2107-1 TEL:0889-26-1136 FAX:0889-26-1799	杏林	昭和54年
山中 康明	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 リハビリテーション科 高知県香南市野市町東野555-18 TEL:0887-55-1101 FAX:0887-55-0177	金沢医科	昭和55年
山本 真也	〒783-0022 社会福祉法人土佐希望の家 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL:088-863-2131 FAX:088-863-2133	高知医科	平成元年
山本 恒義	〒780-0901 高知県高知市上1-10-39	弘前	昭和50年
山本 拓	〒781-1103 医療法人杏クリニック 高知県土佐市高岡町丙64-1 TEL:088-856-6300 FAX:088-856-6301	杏林	昭和62年
吉本 忠	〒780-8121 医療法人山口会 高知厚生病院 消化器外科 高知県高知市葛島1丁目9-50 TEL:088-882-6205 FAX:088-883-1655	高知医科	平成3年
横田啓一郎	〒783-8505 高知大学医学部外科学講座外科1 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL:088-880-2760 FAX:088-880-2702	高知	平成26年

[特別会員]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
安藝 史典	〒780-0085 伊藤外科乳腺クリニック 高知県高知市札幌12-10 TEL:088-883-6868 FAX:088-883-6879	広島	平成6年
内海 善夫	〒780-0051 医療法人新松田会 愛宕病院 高知県高知市愛宕町1丁目4番13号 TEL:088-823-3301 FAX:088-871-0531	鳥取	昭和57年
宇都宮博史	〒780-0844 医療法人博信会 中ノ橋病院 高知県高知市永国寺町1-46 TEL:088-872-4069 FAX:088-872-4077	日本	昭和53年
岡 瑛世	〒783-0005 医療法人藤原会 藤原病院 高知県南国市大桶乙995 TEL:088-864-1092 FAX:088-863-7173	北里	平成22年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
岡添 友洋	〒780-0963 高知医療生活協同組合 高知生協病院 外科 高知県高知市口細山 206-9 TEL: 088-840-0123 FAX: 088-820-0409	藤田保健衛生	平成 19 年
岡林 敏彦	〒780-8040 医療法人弘仁会 岡林病院 高知県高知市神田 598-1 TEL: 088-832-8821 FAX: 088-832-8878	東北	昭和 37 年
岡林 弘毅	〒780-0861 県庁前クリニック 高知県高知市升形 4-3 TEL: 088-823-6651 FAX: 088-823-6743	群馬	昭和 44 年
小野二三雄	〒781-5102 医療法人小野会 おの肛門科胃腸科外科 高知県高知市大津甲 560-2 TEL: 088-866-5500 FAX: 088-866-2777	東京医科	昭和 47 年
上地 一平	〒780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 外科 高知県高知市大膳町 37 088-822-7211 FAX: 088-825-0909	昭和	昭和 61 年
川村 貴範	〒780-0963 高知医療生活協同組合 高知生協病院 高知県高知市口細山 206-9 TEL: 088-840-0123 FAX: 088-820-0409	高知医科	平成 2 年
北村 嘉男	〒781-2110 医療法人光陽会 いの病院 高知県吾川郡いの町 3864 番地 1 TEL: 088-893-0047 FAX: 088-893-1250	徳島	昭和 43 年
公文 龍也	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL: 0887-55-1101 FAX: 0887-55-0177	岡山	平成 17 年
桑原 和則	〒780-8040 JCHO 高知西病院 高知県高知市神田 317-12 TEL: 088-843-1501 FAX: 088-840-1096	日本医科	昭和 43 年
古賀 真紀子	〒781-3521 医療法人十全会 早明浦病院 高知県土佐郡土佐町田井 1372 TEL: 0887-82-0456 FAX: 0887-82-2902	日本	昭和 57 年
島津 栄一	〒780-0066 医療法人仁栄会 島津病院 高知県高知市比島町 4 丁目 6 番 22 号 TEL: 088-823-2285 FAX: 088-824-2363	岐阜	昭和 44 年
島村 善行	〒270-2241 島村トータル・ケア・クリニック 千葉県松戸市松戸新田 21-2 TEL: 047-308-5546 FAX: 047-308-5547	京都府立医科	昭和 47 年
島本 政明	〒780-0841 医療法人島本慈愛会 島本病院 高知県高知市帯屋町 2-6-3 TEL: 088-873-6131 FAX: 088-873-6131	日本医科	昭和 44 年
高橋 淳二	〒780-0051 医療法人悠仁会 高橋病院 高知県高知市愛宕町 3 丁目 9-20 TEL: 088-822-1616 FAX: 088-822-3530	徳島	昭和 29 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
竹下 篤範	〒780-0863 医療法人竹下会 竹下病院 高知県高知市与力町2丁目3番8号 TEL: 088-822-2371 FAX: 088-822-2375	日本医科	昭和40年
竹増 公明	〒799-3202 たけます診療所 愛媛県伊予市双海町上灘甲5350番地16 TEL: 089-986-0909	愛媛	昭和62年
田中 誠	〒780-0901 医療法人産研会 上町病院 高知県高知市上町1丁目7番34号 TEL: 088-823-3271 FAX: 088-823-3275	三重県立	昭和46年
近森 正幸	〒780-0052 社会医療法人近森会 高知県高知市大川筋1丁目1-16 TEL: 088-822-5231 FAX: 088-872-3059	大阪医科	昭和47年
徳丸 哲平	〒788-0785 高知県立幡多けんみん病院 外科 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 TEL: 0880-66-2222 FAX: 0880-66-2111	山口	平成17年
長田 裕典	〒781-0011 医療法人防治会 いずみの病院 外科 高知県高知市薊野北町2丁目10番53号 TEL: 088-826-5511 FAX: 088-826-5510	岡山	昭和57年
西山 瑩	〒780-8040 JCHO 高知西病院 外科 高知県高知市神田317-12 TEL: 088-843-1501 FAX: 088-840-1096	岡山	昭和34年
久 直史	〒780-0806 特定医療法人 久会 函南病院 高知県高知市知寄町1丁目5-15 TEL: 088-882-3126 FAX: 088-882-3128	慶應義塾	昭和50年
福本 和生	〒787-0013 医療法人社団樹人会 北条病院 愛媛県松山市河野中須賀288-5 TEL: 089-993-1200 FAX: 089-993-1700	岡山	昭和58年
細木 秀美	〒780-8535 社会医療法人仁生会 高知県高知市大膳町37 TEL: 088-820-4100	東京医科	昭和42年
堀見 忠司	〒780-8535 社会医療法人仁生会 細木病院 高知県高知市大膳町37 TEL: 088-820-4100	京都府立医科	昭和45年

[名誉会員]

溝淵 玲子	〒787-0331 医療法人 聖真会 渭南病院 高知県土佐清水市越前町6-1 TEL: 0880-82-1151 FAX: 0880-82-0429	東京慈恵医科	昭和40年
味村 俊樹	〒329-0498 自治医科大学消化器・一般外科学 栃木県下野市薬師寺3311-1 TEL: 0285-44-2111 FAX: 0285-44-8169	東京	昭和63年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
村山 正毅	〒740-0034 医療法人岩国みなみ病院 外科 山口県岩国市南岩国町2丁目77番23号 TEL:0827-32-4100 FAX:0827-32-4105	岡山	昭和42年
山本 浩志	〒783-0011 医療法人地塩会 南国中央病院 高知県南国市後免町3丁目1-27 TEL:088-864-0001 FAX:088-864-0332	東京医科	昭和47年
夕部 富三	〒781-0011 医療法人防治会 いずみの病院 高知県高知市薊野北町2丁目10番53号 TEL:088-826-5511 FAX:088-826-5510	自治医科	昭和53年
石黒 晴久	〒781-1101 医療法人広正会 井上病院 高知県土佐市高岡町甲2044 TEL:088-852-2131 FAX:088-852-2133	杏林	平成14年
くぼかわ病院	〒786-0002 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 高知県高岡郡四万十町見付902-1 TEL:0880-22-1111 FAX:0880-22-1166		

[物故会員]

氏名	出身大学	卒業年	逝去年月日
緒方 卓郎	岡山大学	昭和29年	平成20年1月30日
吉川 健	獨協医科大学	昭和61年	平成20年3月10日
清藤 敬	岡山大学	昭和36年	平成20年5月1日
寺田 紘一	鳥取大学	昭和41年	平成20年6月29日
泉山 史貴	杏林大学	平成3年	平成21年1月12日
阿部 哲朗	高知医科大学	昭和59年	平成22年6月2日
井上 廣	長崎医科大学	昭和19年	平成23年6月23日
半田 祐彦			平成24年5月9日
溝淵南海郎			平成26年8月18日
川村 明廣	大阪医科大学	昭和53年	平成28年12月21日

高知大学医学部外科学講座外科一教室同門会会則

第1条（名称）

第1項 本会は、高知大学医学部外科学講座外科一階風会（以下「本会」と称する。

第2条（目的）

第1項 本会は会員相互の親睦を図り、かつ知見の増進に努めることを目的とする。

第3条（会員）

第1項 会員は以下の者をもって構成される。

1. 高知医科大学第一外科教室および高知大学医学部外科学講座外科一教室の出身者ならびに現教室員とする。

第2項 特別会員は、正会員以外で本会の主旨に賛同し、所定の会費を納入する者。

第3項 会員は、本会の目的に賛同し、総会で承認された者とする。

第4条（組織）

第1項 本会は次の役員を置き、本会の運営にあたる。

1. 会長1名、理事3名、幹事3名、会計監事2名

第5条（役員）

第1項 名誉会長は前会長とする。

第2項 会長は高知大学医学部外科学講座外科一教室の教授とする。

第3項 理事は会長が推薦し、総会によって承認する。

第4項 幹事は会長が推薦し、一般会務の処理を行う。

第5項 会計監事は会長が推薦し、一般会計の監査を行う。

第6項 役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

第6条（役員会）

第1項 役員会は、本会の運営に関する事項について協議決定する。

第2項 役員会は、会長が必要と定めた時、または役員より要請があった時に召集する。

第7条（総会）

第1項 本会は、年1回定例総会を開催する。

第8条（会計）

第1項 本会の会計は年会費および寄附金等により運営する。

第2項 年会費は細則で定める。

第3項 会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

第9条（退会）

第1項 会員が死亡したとき。

第2項 会員が退会を希望し、総会で承認されたとき。

第10条（除名）

第1項 会員が以下に該当するときは、総会の議決を経て会長が除名することができる。

1. 会員としての義務を怠ったとき。
2. 本会の名誉を著しく傷つけたとき。
3. その他、上記以外に除名に該当する言動があったとき。

第11条（事業）

第1項 本会は以下の事業を行う。

1. 会報の刊行。
2. 高知大学医学部外科学講座外科一教室の活動の援助。
3. その他、第2条の目的を達成するために必要な事業。

第12条（会則の変更）

第1項 本会則は、総会出席者の過半数の賛成により変更することができる。

第13条（事務局）

第1項 本会の事務局は、高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科一教室内に置く。

第2項 事務局は本会の庶務一般、会費の徴収、会計事務等を行う。

附則

1. 役員は本会の円滑な運営を計るため、必要に応じて細則を定めることができる。

細則

1. 年会費は以下の通りとする。
 - 1) 正会員は年8,000円。
 - 2) 特別会は年5,000円。

この会則の改定は、平成30年5月12日より施行する。

高知大学医学部外科学講座外科一教室同門会役員

(平成 30 年 5 月 12 日)

会 長	花崎 和弘
理 事	島津 栄一
理 事	小林 道也
理 事	並川 努
幹 事	杉本 健樹
幹 事	駄場中 研
幹 事	北川 博之
会計監事	田村 精平
会計監事	公文 正光

[事務局]

高知大学医学部外科学講座外科一教室

編集後記

「利他主義」や「サーバントリーダー」という言葉に代表されるように2018年は指導者の姿勢がクローズアップされた年であった。

皮肉なことに利他主義やサーバントリーダーとはかけ離れた指導者たちが世間を騒がせている。お隣の韓国では自分の利益を追求し過ぎたために前大統領が逮捕され、処罰された。また就任当初はサーバントリーダー風に見えた現大統領は北朝鮮や米国の顔色ばかり窺いながら、我が国に対しては手のひらを返した様な辛辣な要求を次々と突き付けてくる。トランプ大統領のアメリカファースト（アメリカ第一主義）はどこまで拡大していくのか。そしてその先に待ち受けている結果は何か。興味津々というよりも不安である。これらの政治的外交問題は真の国益とは何かについても考えさせられる。

米国史上最も尊敬されている大統領の一人であるリンカーンは次のような言葉を残している。「もし最後の結果が良ければ、私に浴びせられた非難などは全く問題ではない。ただし、最後の結果が悪ければ、たとえ十人の天使が私を弁護してくれたところで、何の役にも立ちほしない」この言葉はノーベル文学賞受賞者でもある英国のチャーチル首相をはじめ世界中の指導者たちの座右の銘となっているのは有名な話である。

優れた指導者の共通点は「組織を発展させるための結果を出し続けるだけでなく、次世代を担う有能な人材も育成していること」である。加えて最終責任は自分を取り、手柄は部下に与えて、部下に華を持たせる。またけしてexcuseはしない。松下幸之助は「組織の中で誰よりも感謝の気持ちが強く、謙虚な人間が指導者に相応しい」と述べている。いずれにしろ組織の繁栄と衰退は指導者の出来不出来に依存している。

医療の原点は「患者さんファースト」である。現在進行中の教室のミッションである「次世代を担うリーダーの育成」を目指して、これからも精進を積み重ねていきたい。

花崎 和弘

同門会誌 楷風 (年報) 第13号

発行人 花崎 和弘
発行所 高知大学医学部外科学講座外科1同門会
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
平成31年5月発行
印刷・製本 株式会社リーブル

医局のホームページも是非ご覧ください♪
http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm_srg1/index.html

